

Heart to Heart 20th



Heart to Heart
社会福祉法人 足立邦栄会 設立20周年記念誌

ほうじんりねん
法人理念



こころ かよ あ しえん こころ かよ あ なかま ていきょう
1、心の通い合う支援を心の通い合う仲間が提供します。

ちいき す な せいかつ つづ ふくしきよてん やくわり
2、地域で住み慣れた生活を続けるための福祉拠点の役割を果たします。

きほんほうしん
基本方針

だれ たい えがお けいい も せつ
1、誰に対してもいつも笑顔で敬意を持って接します。

りようしゃ ひとりひとり じりつ く ささ
2、利用者のひとりひとりの自立した暮らしを支えます。

りようしゃ かぞく なつとく ていきょう
3、利用者や家族に納得していただけるサービスを提供します。

じょうほうこうかい せつきよくてき おこな どうめいせい うんえい おこな
4、情報公開を積極的に行い、透明性のある運営を行います。

こうか こうりつ かんが うんえい けいえい あんてい つと
5、効果・効率を考えた運営をし、経営の安定に努めます。

Heart to Heart 20th

もくじ
目次

りじょうあいさつ 理事長挨拶・ブロック長・エリア長挨拶	ちょう ちょうあいさつ	01～02
ビジョン 2023・Fes.2020		03～04
かつどうほうこく 活動報告		
えがお 笑顔チーム		05～06
しょく 食チーム		07～08
ランドマークチーム		09～10
いくせい 育成チーム		11～12
しんそつさいよう 新卒採用プロジェクト		13～14
じょうほうせんりやくしつ 情報戦略室		15～16
そしき 組織チーム		17～18
これから		19～22
じぎょうしょうしょうかい 事業所紹介		23～30
こまえ さくひん 狛江エリア作品コラージュ		31～32
れきし 歴史		33～39
えんかく 沿革		40
しゅうねん よ 20周年に寄せて		41～42
りようしゃ さくひんしょうかい 利用者さんの作品紹介		43～44

きねんしせいさくひょう いちぶ しょうがいしゃしえんしせつ りよう
この記念誌制作費用の一部は、障害者支援施設みずきをご利用されていた、
こつかもととしひろさま かぞく きふ
故・塚本敏弘様のご家族からのご寄付をつかせていただきました。

祝！20th
社会福祉法人足立邦栄会

今までも、これからも Heart to Heart

りじちよう あらい いわこ
理事長 新井 五輪子



ほんらい どうきよう
本来であれば、東京オリンピック・パラリンピックの開催と共に「Fes.2020」を盛大に実施する予定でしたが、2019(R1)年12月に新型コロナウイルスの流行が始まり、緊急事態宣言の発令、その後も第2波、第3波、第4波と継続しております。その影響により、「Fes.2020」の年間事業もおおぼへんこう よぎ ほうじんかくじぎょうしよも大幅な変更を余儀なくされ、法人各事業所できんちよう し まいにち けいぞく だれ しゅうそくは緊張を強いられる毎日が継続し、誰もが終息のみ ふうん ひび す 見えな不安な日々を過ごしてきました。しかし、かんせんたいさく にちじょうせいかつ なか 感染対策をしながら日常生活の中で「Fes.2020」ねんかんじぎょう すいしん けいぞく おお りようしゃの年間事業の推進を継続し、多くの利用者さんとしよくいん えがお であ 職員の「笑顔」に出会うことができました。

あだちほうえいかい いま ころろ かよ
足立邦栄会は、今までも、これからも、心の通あ しえん ころろ かよ あ なかま ていきよう ちいきい合う支援を心の通い合う仲間が提供し、地域です な せいかつ つづ ふくしきよてん やくわり住み慣れた生活を続けるための福祉拠点の役割をは ほうじんやくしよくいんいちどう けついで果たしてまいります。法人役員一同、決意あら せいしんせいいでりよく こんごも新たに誠心誠意努力してまいります。今後と しどう べんたつ ほど ねが もう あ もご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

しゃかいふくしほうじん あだちほうえいかい ねん
社会福祉法人足立邦栄会は、1999(H11)年がつ にち せつりつ ねん がつ じぎよう1月21日に設立し、2000(H12)年4月より事業うんえい かいし おお みなさま さき 運営を開始いたしました。多くの皆様に支えられとき きざ ねん がつ ついたち ほうじんじぎよう「時」を刻み、2020(R2)年4月1日に法人事業かいし しゅうねんむか あだちほうえいかい開始20周年を迎えることができました。足立邦栄会のこれまでの歴史を振り返り、法人に関わりじんりよく みなさま かんしゃ い ひようご尽力いただいた皆様に感謝の意を表します。ほうじん しゅうねん かこ ふ かえ しゅうせん 法人20周年は、過去を振り返ると終戦から75ねん ほんしん あわじだいしんさい ちかてつ じけん年、阪神・淡路大震災、地下鉄サリン事件から25ねん ひがしにほんだいしんさい ねん むか とし年、東日本大震災から10年を迎える年であり、みらい み にどめ どうきよう 未来を見ると二度目の東京オリンピック・パラリンピックの開催が待ち望まれていました。私たちは、おお じんさい しぜんさいがい いくど の こ ふか大きな人災や自然災害を幾度となく乗り越え、深いかな なげ きぼう えがお か みらい 悲しみや嘆きを希望や笑顔に変えることで、未来へむ すす おも 向かって進むことができるのだと思います。そして、みらい う こ その未来はこれから生まれてくる子どもたちにとつあか みらい ねが ても明るい未来であることを願います。

あか みらい そうぞう あだちほうえいかい
その明るい未来を創造するためには、足立邦栄会せつりつとうしよ めざ げんだい しゃいかかだい とらが設立当初より目指している、現代の社会課題を捉ちいき しゃかい こうけん いのち とうと だいいちえ、地域・社会に貢献し、生命を尊ぶことを第一のもくてき うんえい わたくし しめい 目的として運営していくことが、私たちの使命であり、ビジョン2023に掲げる「目指す社会」を実現かか めざ しゃかい じつげんできる法人へ成長することであると思います。ほうじん せいちよう おも 法人では、2019(H31)年度に5ヶ年計画「ビジョン2023」をスタートさせ、その一環として法人しゅうねんきねんじぎょう かいさい 20周年記念事業「Fes.2020」を開催しております。ほうじんにぜんじぎょうしよ 「ビジョン2023」では、法人内全事業所がおうだんてき へんせい 横断的に編成した、6つのチームと、1つのプロジェクトが、「Fes.2020」の年間事業に向け、アイだ あ かつどう つづ ディアを出し合い活動を続けております。

未来はわからないが...

しんがた せかいてきりゅうこう
新型コロナウイルスの世界的流行により、よそくふかのう できごと つぎつぎ おそ 予測不可能な出来事が次々と襲ってきました。みらい つぶや なげ きも 「未来はわからない」という呟きに嘆きの気持ちはい かこ げんざい が入りがちです。ただ過去・現在とつながっているみらい せかい よそく 未来の世界は、予測はできないけれど、そんなこんきよ かなら わたし たし いま い る根拠は必ずあります。私たちが確かに今を生きあかし みらい すがた かんが たという証が、未来の姿になると考えたいです。

歩けば着くから

おさな ころ やま のぼ やまのぼ
幼い頃からずっと山に登っています。山登りはつら のぼ 辛いですが、なぜかまた登りたくなります。おそ どうちよう もくてきち ちようせんしん たつせいかんらく 登頂という目的地があり、挑戦心と達成感がえ おも 得られるからだと思います。わたし ある つ ことば す 私は「歩けば着くから」という言葉が好きです。とぎん しごと つか くる 登山も仕事も、どんなに疲れていても苦しくても、あゆ と かぎ もくてきち つ 歩みを止めている限り目的地にたどり着きません。とく あゆ と ひとやす 特に歩みが止まりそうなときは、一休みしてこのことば おも かえ 言葉を思い返します。

違うということ

わたし ちが
私とあなたは違います。おな おも かんが しゅみ しこう どのように同じような思い、考え、趣味、嗜好であつ わたし だれ ちが だれ だれ ちが たとしても、私と誰かは違うし、誰かと誰かも違ひます。それゆえに、誰かの全てを理解することはふかのう かんぜん りかい ふかのう かんが 不可能です。完全な理解が不可能ということは、考つづ え続けなければなりません。わたし しごと りようしゃ おも かんが 私たちの仕事は、利用者さんの思いや、考えをそうぞう しえん おこな さい 想像して、支援を行っていくことです。その際、ど

りじ たま ちよう とくたけ たかし
理事・多摩ブロック長 徳武 孝

じぶんじしん じぶん かか ひと いま かこ ちくせき
自分自身や自分と関わる人たちの今（過去の蓄積）だいじ だれ を大事にしているなら（誰もがそうしようとしていみらい ま なつとくかん み る）、どんな未来が待っていても、納得感を見いだせるのではないのでしょうか。だから自分が去った後みらい きぼう たく の未来に希望を託せるのです。

ちじよう みち ある ひと おお
『もともと地上に道はない。歩く人が多くなれば、みち ろじん こきよう それが道になるのだ』（鲁迅「故郷」）

あだち ちよう いたう ごう
足立ブロック長 伊藤 剛

あだちほうえいかい ねん おお ひと さき
足立邦栄会も20年、多くの人に支えられ、バわた あゆ トンを渡しながら歩んできました。

もくてきち
目的地はどこ？

おお ひと もくてきち さが
これからもまた、多くの人が目的地を探しながらきどあいらく とも ば つづ 喜怒哀楽を共にする場としてあり続けるのでしょうか。あす よ ある つ 明日が良ければそれがいい、歩けば着くから。

こまえ ちよう ちかおか まさと
狛江エリア長 近岡 真佐人

せいかい おも
んなに正解だと思うことでも、そこにとどまらずかんが つづ ひつよう 考え続けることが必要です。

ひとり かんが つづ ひつよう
ただし、一人で考え続ける必要はありません。おお ひと あつ じぶん おも かんが 多くの人が集まることで、自分では思いつかない考え え が得られるからです。

さまざま ひと かんが つづ
様々な人たちが、みんなで考え続けてきた20ねん ちが ぜんてい ちから 年。違うことを前提に、そして力にして、これからすす い おも もみんなで進んで行ければと思います。

わたしの存在目的・意義は何か？

社会福祉法人足立邦栄会はおかげさまで2020(R2)年に20周年(2000年事業開始)を迎えることができました。この間「特別養護老人ホームさくら」「身体障害者療護施設かえで」「介護付有料老人ホームリブインさくら」「身体障害者療護施設みずき」「重度身体障害者通所訓練室ポンテ」「地域包括支援センター鹿浜」「多機能型事業所こまこま工房」などの施設を開所し運営してまいりました。沢山の試練を与えられる都度、支援者の皆さま、地域の皆さまに支えられ、喜びを共にしながら乗り越えることができました。関係者の皆さまには改めてお礼と感謝の気持ちをより明確な形にしていきたいと思っています。同時に当法人が抱える問題も顕在化しており抜本的な解決が必要な時期にもなりました。

そこで、これからも地域に根差した施設づくりを行いながら、さまざまな方の生活支援を増進することを目標に策定したのが「ビジョン2023」です。

ビジョン2023の策定にあたり、足立と多摩に数ある法人内の各事業所から、運営のコアを担うメンバー10名が集まり、半年間にわたるワークショップを重ねました。冒頭の問いかけは、その最初の回で問いかけられた問いです。自分自身、また自分たち自身のなかの“存在の根っこ”とつながったものでなければ、どれだけ立派に見える計画を立てても意味がない。今からふりかえれば、そんな思いが込められていたように思います。

不思議だったのは、普段は一堂に会する機会など

ビジョン2023 実行委員会 野崎 建治郎

ほとんどない10名のメンバーが、ワークショップのなかで伝えあうお互いの心根が、さまざまに重なり合っていたこと。足立と多摩のそれぞれで、重なり合う思いを互いに持ちながら事業を営んできたことに改めて気づかされました。

そして、当法人設立時から変わらない「Heart to Heart」の精神に基づき、以下のコンセプトを策定しました。

・VISION：(目指す社会)
 私たちは、お互いの違いと存在価値を認め合える社会、幸せを実感できる共生社会を目指します。

・MISSION：(社会的役割、目的)
 私たちは、違いを認め合える新しいつながり方を創造します。

・VALUE：(生み出す価値)
 私たちは、その人にとっての“しあわせ”を共に生み出し届けます

・ACTION：(事業・活動)
 1. 笑顔を届ける (Heart to Heart)
 関わる全てのひとたちが笑顔になれる

サービスづくり

2. 地域のランドマークとなる
 地域のひとたちがつながれる居場所づくり

3. 強くしなやかな組織をつくる
 働くひとたちが誇りに思える職場づくり

足立邦栄会20周年記念事業



ビジョン2023実行の2年度目となる2020(R2)年度は「Fes.2020(足立邦栄会20周年記念事業)」と銘打って、「事業所から法人へ」をスローガンに、6つの目標とそれを達成するための6つのチームを編成しました。

1、笑顔チーム
 目指すのは、法人・施設の利用者さんを中心に関係する皆さまが、笑顔になれるサービスづくり。

2020(R2)年度は、ポッチャと呼ばれる誰でも気軽に参加できるスポーツ大会の開催を通して笑顔の共有・発信を行いました。

「関わる人々が、主体的に笑顔で活動している。法人が多様な利用者さんに対して、笑顔の支援を提供していることが共有されている」状況を創造することが、これからも目指したいゴールです。

2、ランドマークチーム
 目指すのは、地域のランドマークとなること。そのため、地域のひとたちがつながれる居場所づくりです。施設・事業所の設備や機能、職員の知識やスキルをもちいて、地域のひとの居場所(福祉拠点としての役割もある場所)づくりに貢献します。

2020(R2)年度は地域ニーズの発掘や勉強会・見学会などを行いました。2021(R3)年度以降、各施設・事業所で具体的な取り組みに邁進します。「子どもも、障がい者も、高齢者も、足立邦栄会を自由に使えて、喜んでいる。笑ってる。」そのよう

な拠点づくりが目標です。

3、組織チーム
 目指すのは、法人内で働くひとたちが誇りにもらえる職場づくりです。組織内のルールづくりなど、経営安定化も視野に入れた組織づくりを行います。

2022(R4)年4月1日からの人財部・財務部・情報マーケティング部の立ち上げなど、法人組織の強化・拡充に取り組みます。

4、食チーム
 目指すのは、人が生きていくために必要不可欠な「食」という力(パワー)を活用して、ビジョン2023の実現と、人が集まる法人づくりです。「幸せと食」をキーワードに、地域交流を視野に入れた関連事業を企画し実行していきます。

5、育成チーム
 目指すのは、法人として、より豊かな利用者支援ができる育成体制の構築です。職員一人ひとりのキャリアアップの道筋に応じた研修システムをつくることを目指します。

2020(R2)年度は法人全体で事例検討会に取り組みました。それをもとに、職員がスムーズにキャリアを積み上げるシステムの実現と、職員一人ひとりが働きがいがあり誇りを持てる職場作りに取り組みます。

6、情報戦略室
 目指すのは、①法人のビジョンを内外に発信する②それぞれの事業所の活力ある姿を共有する③人や情報を外部から多く集める、の3点です。インターネット関連の発信力を高めるとともに、情報の収集・精査・分析にも取り組んでいきます。

えがお 笑顔チームの活動報告

えがお 笑顔チーム おおにた 大仁田 たえこ 妙子



わたし えがお ひと
 私たち「笑顔チーム」は、かかわるすべての人た
 えがお
 ちが笑顔になれるサービスづくりをモットーに、そ
 しゅたいき えがお かつどう こうけい
 れぞれが主体的に「笑顔」で活動している光景や、
 ほうじんぜんたい たよう りようしゃ たい えがお
 法人全体が多様な利用者さんに対して「笑顔」の
 しえん ていきよう にちじょうえが りようしゃ
 支援を提供している日常を描きながら、利用者さん
 しょくいんぜんいん たの きかく かんが
 と職員全員で楽しめる企画を考えています。

ねんかん あだちほうえいかい あだちく ふちゅうし
 この20年間、足立邦栄会は足立区と府中市・
 こまえし ちいき かつどう
 そして狛江市と、それぞれの地域でそれぞれの活動
 おこな はってん ちいき ちが
 を行って発展してきました。地域の違いはもちろん、
 たいしょう りようしゃ じぎょうしょ ちが せいかつ
 対象とする利用者さんも事業所ごとに違い、生活
 じかん ちが
 の時間にもちょっとした違いがあります。それぞ
 れれきし ちが ゆた ほうじん
 れ歴史があり、いろいろ違うという豊かさが法人の
 みりよく えがお ちが ぜんてい
 魅力でもあります。笑顔チームではその違いを前提
 いっしょ かんが こと はじ
 に「一緒にできることを考える事」から始まりまし
 まいつき かい かいぎ えがお
 た。毎月1回の会議では笑顔チームのモットーを
 かくにん ゆめ かた
 確認しながら、夢を語り、これならいけるかも！と
 かんが つ せいしきしゅもく
 考え付いたのが、パラリンピックの正式種目でもあ
 るスポーツ「ボッチャ」でした。

「ボッチャ」は、ヨーロッパで生まれた
 じゅうどのうせいまいひしゃ どうていど ししじゅうどきのう
 重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能
 しょうしゃ こうあん
 障がい者のために考案されたスポーツです。ジャッ
 くボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、
 あか あお きゅう な
 赤・青のそれぞれ6球ずつのカラーボールを投げた
 ころ ほか あ
 り、転がしたり、他のボールに当たったりして、いか
 ちか きそ な
 に近づけるかを競います。ボールを投げることで
 こうばいぐ つか じぶん
 きなくとも、勾配具（ランプス）を使い、自分の
 いし かいじょしゃ つた
 意思を介助者に伝えることができれば、どなたでも
 さんか
 参加できるスポーツです。



笑顔チームメンバー



い まった し しょくいん おお
 とは言えボッチャを全く知らない職員も多く、い
 せいしき おこな たか
 きなり正式ルールで行うにはハードルが高く「でき
 りようしゃ
 ない！やらない！」になってしまいます。利用者
 しょくいん さいだい
 さんと職員のモチベーションをあげていくのが最大
 かだい はな あ
 の課題でした。チームで話し合い「まずはボール
 さわ たの
 に触ってもらおう。楽しいわかりやすいゲームで
 きがる たの かつどう
 やってみよう！」と、気軽に楽しんでできる活動
 ていあん つく かくじぎょうしょ
 の提案をしていきました。チラシを作り各事業所
 けいじ ほうじんぜんたい おこな ふんいき つく もくひよう
 に掲示し、法人全体で行う雰囲気を作り、目標と
 ほうじんそうりつづき がつ そうりつ しゅうねんきねん
 していた法人創立月の1月に「創立20周年記念
 はい たいかい かいさい
 スマイル杯 みんなでボッチャ大会」を開催する
 はこ ほうじん
 運びとなったのです。ルールも法人オリジナルで
 こうあん しはん りよう あか あお
 考案。市販のボッチャターゲットを利用し赤と青の
 こ はな ばしよ ない
 ボール12個を3メートル離れた場所から投げ入
 とくてんわくはい ごうけいてんすうきそ
 れ、得点枠に入ったボールの合計点数で競うもの
 て な よし あし け
 しました。ボールを手で投げてもよし、足で蹴つ
 おつけー つか だいじょうぶ
 もOK！、もちろんランプスを使っても大丈夫！
 こ おお とくてんわく なか
 とにかく1個でも多くのボールを点数枠の中
 い こうとくてん めぎ たんじゅん
 入れ、高得点を目指すという単純でわかりやすい
 かくじぎょうしょ せつめい おお
 ルールを各事業所に説明し、より多くのチームが
 よせんかい さんか つた
 予選会に参加できるように伝えていきました。

じんせい たの か たの
 「人生は楽しむこと！勝てばもっと楽しい！！」
 れんしゅう かさ わか ま
 「練習は重ねてきた。若いもんには負けられない！」
 ずのう しょうり めぎ しゅんぴん こうさつりよく
 「頭脳プレイで勝利を目指す！」「俊敏さと考察力
 か などなど かくじぎょうしょ いきご
 で勝つ！」等々、各事業所の意気込みも、ゲー
 かいすう かせ あ
 ムの回数を重ねるごとに上がってきました。そし
 むか けっしょうせん おこ しあい
 て迎えた決勝戦！オンラインで行なった試合は、
 そうぞういじょう えがお たいかい
 想像以上の笑顔あふれる大会になりました。



りようしゃ しょくいん ま とも
 利用者さんと職員がごちゃ混ぜになって、共に
 ちやうてん めぎ たいかい じぎょうしょ
 頂点を目指す大会には事業所ごとのドラマがあり、
 えがお たんとうしゃ ひき
 笑顔チーム担当者の「悲喜こもごも！？」もありま
 とうしょしんばい ちが
 した。当初心配していた「違い」も、「コロナ」も
 ちえ くふう のりこ こんき
 知恵と工夫で乗り越え（！？）ていました。今期の
 けいけん こうりゅう あ かた ちが
 経験は、これからの交流の在り方をはじめ、違いを
 こ いっしょ たの しよぞく じぎょうしょ
 超えて一緒に楽しむことや、所属している事業所
 いったいかななど ほうじんぜんたい たくさんえ
 の一体感等、法人全体でできるヒントを沢山得
 じねんどいこう けいけん い
 られました。次年度以降も、この経験を活かした
 きやうつう かつどう ていきよう じっし
 共通の活動の提供を実施していきます。

さんこう にほん きやうかい
 参考：日本ボッチャ協会

<https://japan-boccia.com>

これまで
 笑顔チーム

これまで
 笑顔チーム

食チームの活動報告

食チーム 伊藤 剛



食チーム企画第二弾!? 『巨大ケーキでデコりんこ』

「食」は人を「幸福」にも「不幸」にもする力（パワー）を持つ

「食」は生活に欠かせないものであり、多くのひとにとって生活の楽しみの一つです。その「食」という力（パワー）を、法人のビジョンの起爆剤とし、その力を十分に生かし、ひとが集まる法人に導く。食チームはそんな少しカッコつけたスローガンを掲げ、スタートしました。

法人がその土台作りとして目指す“事業所から法人へ”に向けて、食チームはどのような貢献ができるのか。

食事提供は大きく足立と多摩の2か所で行っています。まずは互いにつながりあい、情報交換ができる環境と刺激を受け合いながら成長できる場づくりができれば、可能性が広がるのではないかと。

そして、普段は裏方として食事を作ってくれている調理師がメンバーに加わり、食へのこだわり

を新しい角度からアプローチすることを目指して活動がスタートしました。普段、食事献立を作成している栄養士ではなく、調理師が主メンバーとなったことは、のちに大きな意味を成したと思います。

スタート当初、「食」に関わるニーズを掘り起こそうと、大きく分けて3つの計画をしていました。①「利用者さん」には食事支援科（課）と食チームが発案する単発的なイベント、例えば日本全国郷土料理シリーズ（イベント食）・てづく だがしや 手作りスイーツイベント・おやつでの駄菓子屋システムなど。②「職員」には真空調理を活かした福利厚生の一環として、新メニューの提案と試食会・真空調理の持ち帰り弁当・クッキング教室など。そして③「地域」に向けた他プロジェクトや他団体との協働（Fes.2020への関わ

食チームメンバー



り・施設見学会と食事会の共催・子ども食堂等の外部団体とのつながり強化などを企画しました。

その後の新型コロナウイルスの流行により、昨年1年間は、感染予防と並行しながらの活動で思うように進むことができませんでしたが、1年経ったいまもやりたいこと、目指すところは変わっていません。

初年度ははじめに取り組んだことは、足立・多摩の自慢の厨房の日常や活動を法人内部に伝えることでした。食チームの広報誌『たのしくパクリんこ』の創刊です。広報誌の名前は両ブロックの食事支援科（課）内で募集し、投票で決めました。緊急事態宣言が明けた8月から毎月発刊し、9号まで発刊できました（2021(R3)年4月現在）。食チームの職員の紹介、提供した行事食、あたらしい献立、食チームの活動などを掲載しています。「食」という最強のアイテムを携え、食チームの活動が法人全体にとっても良い効果をもたらしているよう、今後も継続していきたいと思っています。

下半期に入り感染予防対策の影響が続く中、何か食チームとしてのイベントを！と考えたのが食チーム企画第二弾!? 『巨大ケーキでデコりんこ』でした。思い思いに大きなケーキをデコレーションしてただ食べるという、なんとという単純で純粋な企画!!。再びの緊急事態宣言でそれぞれにラストレーションも感じていました。1月に予定されていた記念式典が延期された中、足立邦栄会20周年記念事業の一環として“事業所から法人へ”をコンセプトに、法人内で同じ企画を共有したいという思いではじめました。2月に入りリブイン



さくらからスタートし、法人内11か所の事業所で開催できました。どこもなかなか仕上がりとありませんでした。見栄えの良いものを作ろう、ここぞとばかりに甘いものをたくさんかけてしまおうなど、さまざまなくろみ?が交錯しながら、利用者さんはもちろんですが職員も一緒に楽しむことができました。たくさんの笑顔を見ることができ、今後の活動につながる企画になったと思います。コロナという非常事態だからこそ「食」の力が発揮されたのでは

はないでしょうか。このように食チームとしての1年目は、法人の発展に「食」という最強のアイテムをどのように活かしていくのか、そして裏方の印象がある食事支援科（課）の職員が活躍できる場をどうつくりていくのかを考えながら活動できました。

そのほかにも、選択食の見える化、食事支援科（課）からのイベント発案、新たな献立メニューや郷土料理シリーズ（イベント食）の提供などを進めています。

そして何よりも、両ブロックの調理師が主体のごうぎたいはじりょうがはじめて生まれたことが、法人にとって大きな成果であり、今後の運営や展開に必ず大きな意味を成しつながっていくものだと感じています。

ランドマークチームの活動報告

かつどうほうこく

ランドマークチーム 岩崎 京子

ランドマークチームは、「地域のランドマークとなる～地域のひとたちがつながれる居場所づくり～」を目指して、子どもも、障がい者も、高齢者も、あだちほうえいかいじゆうつかよろこわら足立邦栄会を自由に使用して、喜んでいて、笑っている、あそこがあると安心できると思ってもらえる場をつくる事に一歩ずつ歩みを進めています。

Fes.2020では、当初はいろんなことを考えていました。キックオフミーティングでは、所属するきよてんじぎょうしよちいきせいちいきたいつよ拠点・事業所の地域性、地域に対するの強み・弱みなどを出し合って、そして実際にチームメンバーでお互いのこと（事業所）を知り（相互見学）、さらに学びたい先進的／活力あるところに見学に行く、そうしてチームとしての具体的なビジョンを膨らませて、やがて実践につなげていくんだという意気込みでした。でもコロナ禍の高波をまともに被ることとなりました。



①まず足元から各事業所を知る事。チームメンバー相互の見学会の実施については、2020(R2)年6月に1回目としてこまえ工房の見学は実施しましたが、その後は対面での会議すら実施できず、テレビ会議で写真等を用いてお互いの事業所を紹介し合いました。

②地域でランドマークとなっている施設等の見学会の計画。メンバーで出したたくさんの候補から絞っていったのは、次のようなところでした。「絆社会の実現」というミッションのもと、たくさんの方との繋がりを作っている障がい者施設。「あきらめない介護」を理念として愛犬や愛猫と一緒に入居できる特別養護老人ホーム。いろんな人が集まり活気のある地域づくりをしているコミュニティカフェ。関東から離れた所では、子ども・障がい者・高齢者、ごちゃまぜでにぎやかなデイサービスなど。しかし、これもほとんど中止を余儀なくされました。（少し世間が落ち着いているときに、少人数で、近隣や関係の深い事業所を2ヶ所ほど見学しました。）

③自分たちの足元をしっかり見据え、やがて地域に向かって大きく羽ばたけるように、この間自分たちが学んだこと、考えたこと、やりたいことをまとめることにしました。

●チームさくら（さくらとリブインさくら合同チーム）：『地域と笑顔の架け橋に！！』
さくらの地域課題や実践、そして地域活動をし

ランドマークチームメンバー



ている他事業所の実践も参考に、認知症サポーター養成講座やあんしん協力機関に登録など、これから取り組んでいくことが見えてきました。またリブインさくらもさくらと一緒に取り組んで、催しもの見学会など、良いモノを創るアイデアを出し合いました。

●チームこまえ：『多種多様なコミュニティを目指して』
「共生型」というワードに着目し、近隣のフリースペースに話を聞きに行きました。そこからまた地域で活動する団体を紹介してもらい、つながりが広がってきました。社会福祉協議会の力も借りて、これから交流・発信・話し合い・お手伝いなど、その輪を広げていきたいと思っています。

●チームみずき：『外の風をみずきの空気に』
地域に向けてカフェなど地域展開を活発に行っている事業所、隣にあって配食サービスなども行っている事業所を見学しました。みずき内に2020(R2)年9月にオープンした‘café a t’を起点に、

りようしやちいきむすえがおこうさてんとく利用者さんと地域を結ぶ笑顔の交差点となる取り組みを具体化していきたいです。

④それぞれのチームがこれから目指すランドマークの第1歩としての研究発表会の実施（2021(R3)年2月）

テレビ会議システムを使って、上記3チームのかつどうはっぴょうかくじぎょうしよたкусんしよくいんさんか活動を発表。各事業所から沢山の職員の参加（4拠点から計45名）がありました。とても励みになりました。そこでのアンケート結果を参考にし、地域で何が出来るのか、今後の活動の糧としていきます。

ランドマークチームは新型コロナウイルスの影響を最も受けたチームと言えるかもしれません。ですがそのおかげで、私たちそれぞれの「地域」に改めて目が向きました。「地域」を知る事、「地域」に何が必要とされているのか調べる事、考える事、話し合う事、それは私たちランドマークチームにとって足元を固める為に必要な事だったと確信しています。

これまで
ランドマークチーム

これまで
ランドマークチーム



いくせい じんざいいくせい
 育成チームは、人材育成プロジェクトという
 じぎょうしよおうだんがた せんこう うご
 事業所横断型プロジェクトとして先行して動い
 ばたい できあ
 ていたプロジェクトが母体となって出来上がった

チームです。

じんざいいくせい じたい
 人材育成プロジェクト自体は、2014(H26)
 ねん ほうじん じく あ もくてき
 年に法人の「軸を合わせる」ことを目的に、
 じぎょうしよおうだん ぶかい た あ いちねんかん とお
 事業所横断の部会を立ち上げ、一年間を通して
 おこな かつどう はじ てさぐ はじ
 ワークを行うなどの活動を始めました。手探りで始
 ねんごろ
 まったプロジェクトでしたが、2017(H29)年頃から
 じく あ たいわ きょうどうどじょう
 は、「軸を合わせる=対話と協働の土壌づくり」と
 けいしき けんしゅう ちゅうしん
 して、ワークショップ形式の研修を中心とし
 がいぶ じぎょうしよ そしき かか
 て、外部の事業所や組織などとも関わりなが
 おこな
 ら行ってきました。

こうした取り組みをベースとして、いくせい
 育成チームで
 ほうじん ゆた りょうしゃしえん
 は「法人として、より豊かな利用者支援ができる
 いくせいたいせい もくてき
 育成体制をつくる」ことを目的に、キャリアパス

もと けんしゅう こうちく めぎ
 に基づいた研修システムの構築を目指しています。

なか ねんど けんしゅう づく
 そんな中、2020(R2)年度は研修システム作りの
 けんとう じれいけんとうかい ほんだ おこな きかく
 検討と、事例検討会の2本立てで行うように企画
 しんがた りゅうこう
 しました。しかし、新型コロナウイルスの流行
 じれいけんとうかい ちゅうしん
 などもあり、事例検討会を中心としたプログラ
 へんこう じれいけんとうかい つう
 ムへと変更しています。事例検討会を通じては、
 かくじぎょうしよ じっさい しえん げんじょう かだい
 各事業所の実際(支援、現状、課題など)を
 きょうゆう たじぎょうしよ してん
 共有するとともに、他事業所からの視点であらた
 き めぎ
 な気づきにつなげていくことを目指しました。また、
 か じょうせい かんが けんとうかい かいぎ
 コロナ禍の情勢を鑑み検討会はテレビ会議シ
 りょう こまえ
 ステムを利用してさくら、狛江、リブインさくら、
 つな おこな
 みずきを繋いで行いました。

だい かいめ じれいけんとうかい きたくがんぼう
 第1回目の事例検討会は、さくらの帰宅願望
 こうれいにゆうきよしゃ じれい けんとう
 がある高齢入居者さんの事例を検討しました。
 しゃかい かいぎ じたい
 初回ということもあり、テレビ会議システム自体に
 ふな めん おお はんせいてん おお で
 不慣れな面も多く、反省点も多く出ました。

育成チームメンバー



かいめ こまえ そうだんしえんじぎょうしよ ちいき
 2回目は狛江の相談支援事業所から、地域で
 ひとりぐ しょう しゃ ちてき かた
 一人暮らしをされている障がい者(知的)の方の
 じれい と あ ほんにん ちゅうしん さまざま
 事例を取り上げました。ご本人を中心に、様々なサー
 つか ちいき く さい かだい
 ビスを使いながら地域で暮らしていく際の課題など
 きょうゆう
 が共有されました。

かいめ えいきょう たの
 3回目は、新型コロナウイルスの影響で楽し
 がいしゅつ むづか
 みの外出などが難しくなったりリブインさくらの
 にゆうきよしゃ じれい じれい
 入居者さんの事例となり、タイムリーな事例を
 けんとう でき
 検討することが出来ました。

さいご かいめ しんたいしろう かた
 最後の4回目は、身体に障がいのあるみずぎの方
 じれい ほんにん ほうほう まわ
 の事例で、ご本人のコミュニケーション方法が、周
 ふかい おも れい けんとう
 りからは不快と思われる例を検討しました。
 ほんにん きも しょくいんせつ かたまわ かた おも
 ご本人の気持ちと、職員の接し方、周りの方の思い
 さまざま おも から じれい
 など、様々な思いが絡んだ事例でした。

じれい かくじぎょうしよ あ まえ じれい
 どの事例も、各事業所では当たり前にある事例
 ふだんふ あ すく た
 かもしれませんが、普段触れ合うことの少ない他の
 じぎょうしよ しんせん う と
 事業所では新鮮に受け止められていました。また、
 けんとう なか ふだんせつ じぎょうしよ ほうそう
 検討の中でも普段接していない事業所ほど、発想が
 じゆう あら してん いけん で
 自由になり、新たな視点での意見が出てきていました。



かいぎ つか けんしゅう
 テレビ会議を使つての研修なので、それぞれの
 しんこう びみょう おんりょう
 進行が微妙なところでずれてしまったり、音量
 ばしよ ちょうせい でき
 がそれぞれの場所でうまく調整が出来ていなかった
 うま ぶぶん たた
 り、上手くいかない部分も多々ありました。また、
 ふだんせつ しょくいんどうし いけんこうかん
 普段接していない職員同士の意見交換などはテレビ
 かいぎ むづか こんご かだい おお み
 会議では難しく、今後の課題も多く見つかりました。

いどう てま じかん じぶん
 しかし、移動の手間や時間がかからず、自分の
 しょぞく じぎょうしよ ちか きがる ほうじんぜんたい つな
 所属する事業所の近くから、気軽に法人全体が繋
 がれるメリットもあり、おお しょくいんさんか いただ
 たが いしき たんしよ おも
 お互いを意識する端緒にはなったと思います。

ほうじんぜんたい とく とく
 これまで、法人全体の取り組み、特にだれでも
 さんかでき おお しょくいんあつ とく
 参加出来て、多くの職員が集まる取り組みがあまり
 なか じれいけんとうかい かたち おこな
 ない中で、事例検討会がこのような形で行えたこ
 じぎょうしよ ほうじん
 とは、「事業所から法人へ」というスローガン
 かんが いったん にな じふ
 から考えても、その一端をしっかりと担えたと自負し
 ています。

こんかい けいけん もくてきしゅほう みさだ
 今回の経験をもとに、目的と手法を見定めながら、
 けんしゅう たいけい い おも
 研修システム体系に活かしていきたいと思ひます。

これまで
 育成チーム

これまで
 育成チーム

新卒採用プロジェクトの活動報告

しんそつさいよう かつどうほうこく
 新卒採用プロジェクト 久木原 優一



しんそつさいよう ねん がつ
 新卒採用プロジェクトは、2018(H30)年6月に
 げんけい めい しょくいん
 チームの原型となる3名の職員によってスター
 はな あ かさ あだちほうえいかい
 トしました。話し合いを重ね、足立邦栄会の
 しんそつさいよう こっかく くるま りょうりん しんそつ
 新卒採用の骨格となる「車の両輪＝新卒の
 さいよう しょくぼふうど み はじ がつ
 採用と職場風土づくり」が見え始め、11月に
 かくじぎょうしょ しんそつさいよう た あ
 各事業所で新卒採用プロジェクト立ち上げの
 きかくせつめい おこな ぼしゅうおこな
 企画説明を行い、コアメンバーの募集を行いました。
 あだち にな たま ふたり
 そこから足立チーム4人と多摩チーム2人で
 あだちほうえいかい しんそつさいよう たんじょう
 足立邦栄会の新卒採用プロジェクトは誕生し
 ました。

しんそつさいよう た あ
 新卒採用プロジェクトが立ち上がると、すぐ
 おお かべ た しゅうしょくじょうほう
 に大きな壁が立ちふさがりました。就職情報
 がいしゃ しゅさい ごうどうかいしゃせつめいかい
 会社が主催する合同会社説明会です。メンバー
 かいご たざさ なか
 のほとんどが介護に携わってきた中で、いきなり
 ふとくていたすう がくせい あだちほうえいかい
 不特定多数の学生さんに足立邦栄会のことを
 せつめい し ぜんいん
 説明する、知ってもらおう。これはメンバー全員にとつ

みけいけん あだちほうえいかい
 て未経験のことでした。どうしたら足立邦栄会
 かんしん も
 に関心を持ってもらえるか？どういったことを
 つた みりよく かん
 伝えれば魅力とじてもらえるのか？そもそも
 あだちほうえいかい みりよく おこな
 足立邦栄会の魅力はなんなのか？まず行ったこ
 とは、自分たちを知る事でした。各事業所に行き、
 けんがく りそう げんじつ はな あ
 見学し、ミーティングでは理想と現実を話し合う。
 じかん す じぶん じゅんぴ むか
 そんな時間を過ごし、自分たちなりの準備をして迎
 えた合同会社説明会では、新卒採用の難しさ
 づかん
 を痛感することになりました。



新卒採用プロジェクトメンバー



かいし あだちほうえいかい ぶんかん
 開始してから足立邦栄会のブースに30分間、
 だれ た よ さいしょ かん こと
 誰も立ち寄ってくれない…。最初に感じた事は、
 じゅんぴ せつめい むりよくかん
 準備したことも説明できない無力感でした。そ
 さんから、サポートメンバーとして参加してくれた
 げんばしょくいん がんば すこ た よ
 現場職員の頑張りもあり、少しずつ立ち寄って
 がくせい ふ はじ がくせい せつめい しい ねつ
 れる学生が増え始め、学生さんへの説明も次第に熱
 はい がくせい はんのうひとひと
 が入っていききました。そして学生さんの反応一つ
 よろこ たの かん
 つに喜びと楽しさを感じることができ、あっという
 ま じかん ごうどうかいしゃせつめいかい しゅうりょう
 間に4時間の合同会社説明会が終了しました。
 もくひょう にんずう わず とど
 目標とした人数には僅かに届きませんでした。が、
 しんそつさいよう むずか どうじ たの
 新卒採用の難しさと同時に、楽しさとやりがい
 かん にち ひ かん おお
 を感じられる1日となりました。この日に感じた多く
 かんじょう あだちほうえいかい しんそつさいよう げんてん
 の感情が、足立邦栄会の新卒採用の原点であり、
 あゆ ねんかん いしづえ かん
 そのあと歩んできた2年間の礎になったと感じて
 います。



しんそつさいよう じしん しょぞく
 そこから新卒採用プロジェクトは、自身が所属す
 じぎょうしょ ほうじんぜんたい わ
 る事業所だけではなく、法人全体のことを「我が
 こと とら しゃかいてき がくせい
 事」として捉え、社会的ニーズ、学生ニーズをチー
 みんな かんが はじ かいしゃせつめいかい はじ
 ム皆で考え、初めての会社説明会、初めてのイン
 きかく とく
 ターンシップを企画し取り組んできました。そし
 さいしょ せいか ねん がつ
 て最初の成果として、なんと2020(R2)年4月には、
 めい しんそつにゅうしょくしゃ むか
 3名の新卒入職者を迎えることができました！
 ごうどうにゅうしゃしきさいかい とき かんどう たつせい かん いま
 合同入社式で再会した時の感動と達成感は今で

わす
 も忘れられません。
 じゅんぼうまんぼん おも しんそつさいよう
 順風満帆だと思われた新卒採用プロジェクト
 でしたが、2020(R2)年度、大きな壁が立ち塞がりま
 あだちほうえいかい がくせい ふく
 す。それは、足立邦栄会だけではなく、学生も含
 しゃかいぜんたい おお こんらん ま お しんがた
 めた社会全体に大きな混乱を巻き起こした新型コ
 せかいてきだりゅうこう
 ナウイルスの世界的大流行です。



よてい ちゅうし
 予定していたイベントは中止になり、
 ごうどうかいしゃせつめいかい かいさい き
 合同会社説明会もオンラインでの開催に切り
 か とうしょよてい すべ へんこう
 替わり、当初予定していたこと全てが変更となっ
 すこ つ かせ
 てしまいました。少しずつ積み重ねてきたことが
 まいにち
 またゼロからのスタート。そんな毎日でしたが、
 しんそつさいよう なた がくせい
 新卒採用コンサルタントの方とともに「学生さん
 よ そ さいようかつどう じぶん もと
 に寄り添う」採用活動について、自分たちに求めら
 あらた かんが いま
 れていることを改めて考えるきっかけになり、今で
 あ まえ かいしゃせつめいかい
 は、当たり前となっているオンライン会社説明会
 ふくしぎょうかい さき
 やインターンシップも、福祉業界では、先んじてチャ
 おこな とうぜんしつぱい
 レンジを行ってきました。当然失敗することもあり
 しこうさくご かせ とく
 ましたが、試行錯誤を重ねて取り組んできました。
 せいか すこ なたち あらわ ねん
 その成果は、少しずつ形となって現れ、2021(R3)年
 がつ さくねん おお めい しんそつにゅうしょくしゃ
 4月は昨年よりも多い7名の新卒入職者となり
 おお がくせい なた かか つな
 ました。多くの学生の方と関わり、繋がることがで
 うれ
 き、とても嬉しいです。

これまで
 新卒採用プロジェクト

これまで
 新卒採用プロジェクト

じょうほうせんりやくしつ とくたけ たかし
情報戦略室 徳武 孝

じょうほうせんりやくしつ もくてき つぎ てん
 情報戦略室の目的は次の3点です。

ちいき あんしん きよ ちいきこうけん
 ①地域の安心に寄与すること (地域貢献)

ひび しごと しえん じしん ほこ
 ②日々の仕事や支援についての自信と誇りを
 しょくいん しょくいん
 職員にもたらすこと (職員のエンパワメント)

りょうしゃ ふくしげんば ちいき しゃかい ゆた
 ③利用者さんや福祉現場が、地域や社会と豊かに
 つながること (豊かなつながりの創造)

ほうじん じぎょうしょ はっしん
 そして法人やそれぞれの事業所からの発信を、
 ちいき しゃかい ひと りょうしゃ しょくいん
 地域・社会の人や、利用者さん、職員のほうから、
 き し おも ほうじん
 聴きたい、知りたいと思ってもらえるように、法人
 かつりよく すがた みりよくてき こうかてき せんりやくてき
 の活力ある姿を、魅力的・効果的・戦略的に
 つた おも かつどう
 お伝えしたいと思って活動しています。



しょくいん ゆうけんしゃ とくひょう さいしゅうせんこう おこな
 さん、職員を有権者とした投票で最終選考を行
 とくひょうそうすう ひょう なか ひょう かくとう
 い、投票総数 336 票の中から 93 票を獲得した
 は一とどう は一と えら
 「Heart to Heart 20th」が選ばれました。

とくせつ
 ② Fes.2020 特設ページ (ホームページ)

はしらかつどう
 Fes.2020 では、3つの柱で活動してきました。

<http://vision2023.houeikai.gr.jp/>

とく ひろ ないがい し
 Fes.2020 の取り組みを広く内外に知らせたい。

そのために Fes.2020 のホームページを作りました。
 た。2020(R2)年6月30日からスタートして、ほ
 まいしゅうきじ あだちほうえいかいそうりつ
 ぼ毎週記事をアップしました。「足立邦栄会創立
 しゅうねんきねん はい
 20周年記念 スマイル杯 みんなでポッチャ
 たいかい えがお きよだい
 大会」(笑顔チーム)、「巨大ケーキでデコりんこデ
 しょく じれいけんとうかい いくせい
 コレクション」(食チーム)、「事例検討会」(育成
 けんきゅうはっぴようかい
 チーム)、「研究発表会」(ランドマークチーム)、
 ごうどうにゅうしゃしき しんそつさいよう
 「合同入社式」(新卒採用プロジェクト)など、
 と じゅうじつ ないよう
 バラエティに富んだ充実したコンテンツ (内容) と
 なっています。

ふくし ちいき なに ひと
 福祉とか地域にかかわる何かをやってみたい人、
 じだい にな ひと ひとり おお ひと
 これからの時代を担う人など、一人でも多くの人に
 み ねが こ
 見てもらいたいという願いを込めて・・・。

しゅうねんきねんし は一とどう は一と
 ① 20周年記念誌「Heart to Heart 20th」

きねんし へんしゅうほうしん
 この記念誌のことで！編集方針は、
 あだちほうえいかい げんざいち
 「足立邦栄会のこれまで・現在地・これからをひろ
 ないがい こんご かつどう
 く内外にアピールすることで、今後の活動へのエネ
 りょうしゃ
 ルギーにしたい」としました。そして利用者さんと
 しゅうねん いっしょ よろこ
 20周年を一緒に喜ぶようにすること、ビジョン
 ほうこうせい つた れきし つ
 2023の方向性をしっかり伝えること、歴史の積み
 かさ いま だいじ
 重ねがあって今があることなどを大事にしました。
 わたし きねんし こ おも よ
 私たちの記念誌に込めた思いはお読みいただく
 ひと しょうかい きねんし
 として、一つだけご紹介。この記念誌のタイトル
 りょうしゃ しょくいん ひろ つの じつ
 は、利用者さんと職員から広く募りました。実に
 あだち たま
 102 (足立ブロックと多摩ブロックちょうど51ず
 あ
 つ)のタイトルを挙げていただきました。それをビ
 じっこういいんかい いちじせんこう
 ジョン 2023 実行委員会のメンバーによる一次選考
 しぼ すべ りょうしゃ
 で6つにまで絞りました。そして全ての利用者

情報戦略室チームメンバー




わたし ねん しょくいん しゅう
 ③ 「私の20年」：職員リレーエッセイ集

しょくいんひとり ほうじん しゅうねん じしん かさ あ
 職員一人ひとりが法人20周年を自身と重ね合
 わせてとらえてもらおうと、「私の20年」という
 テーマでリレーエッセイを企画しました。法人の
 ぜんじぎょうしょ ぜんしゅういん よ か めい しょくいん
 全事業所、全職員に呼び掛けて、183名の職員
 しっぴつ
 のみなさんが執筆しました。リレーエッセイは、
 かべしんぶん しゅうかん わたし ねん
 壁新聞「週刊リレーエッセイ私の20年」として
 まいしゅうかくじぎょうしょ けいじ
 まとめ、毎週各事業所の掲示スペースやスタッ
 けいじ ねん がつ よっかそうかんごう
 フルームに掲示。2020(R2)年5月4日創刊号
 しゅう やす がつ にちだい ごう
 から1週も休むことなく、11月16日第28号で
 ぶじかんそう
 無事完走できました。
 ひとり おも だれ
 一人ひとりの思いのこもったエッセイ。誰にも

だいい れきし おも
 かけがえのない大事な歴史、思い、ひと... がある
 おも ほうじん つ あ
 のだとしみじみ思います。そして法人が積み上げた
 ねん ねんげつ つぎ ねん
 20年という年月を、次の20年につなぐために、
 ひとり たいせつ はっしん
 「一人ひとりを大切に」というメッセージを発信で
 おも
 きたリレーエッセイになったと思います。

ねん がつ にち
 このリレーエッセイ、2021(R3)年1月21日の
 ほうじんそうせつきねんび あ わたし ねん しょくいん
 法人創設記念日に合わせ、「私の20年」～職員リ
 しゅう さっし しょくいん くば
 レーエッセイ集～という冊子にして職員に配りま
 しゃかい ふくし ほうじん こじんこじん ねん
 した。社会、福祉、法人、個人個人の20年が、つ
 も かん さっし
 ながりを持って感じてもらえる、そんな冊子になっ
 たのではないのでしょうか。

これまで
 情報戦略室

これまで
 情報戦略室

組織チームの活動報告

2020(R2)年4月1日、足立邦栄会の事業運営開始から20年が経ちました。地域からの期待に応える形で、さくら、みずき、こまえ、リブインさくらの事業所運営を展開してきました。それぞれの事業所では、利用者さんや地域の特徴を踏まえた運営を行い、障がい児から高齢者まで幅広い対象の方の支援を行ってきました。しかし、それぞれの事業で完結してしまっており、事業所間の横の繋がりがとても弱く、法人としての強みを活かすことができていませんでした。

事業所同士の横の繋がりを理解を深め、法人としての強みを活かすことができる組織を構築することは、法人にとっての永年の課題でありました。そこで、法人ビジョン、中長期計画を作成するた

め、当時各事業所の管理者であったコアメンバーでビジョン2023ワーキングチームを編成し、約1年を掛け策定したのが、「ビジョン2023法人の木(22ページに掲載)」「ビジョン2023ステートメント」です。ビジョン2023のアクションプランでのキーワードは、「笑顔(利用者さん)」「ランドマーク(地域)」「組織(職員)」の3つです。これらを達成するために6つのプロジェクトを編成し、そのうちの1つが「組織チーム」です。組織チームは理事長、ブロック長、エリア長、ブロック事務長で編成され、ビジョン2023のストーリーを実現するために始動しました。

2019(R1)年から2020(R2)年は「土台づくり」として「法人の一体化」、2021(R3)年から2023(R5)年は「定着と展開」として「元気な法人づくり」、2024(R6)年以降は「発展」として「元気のお裾分け」

ねん がつついたちあだちほうえいかい じぎょううんえい
2020(R2)年4月1日、足立邦栄会の事業運営
かいし ねん た ちいき きたい
開始から20年が経ちました。地域からの期待に
こた かたち
応える形で、さくら、みずき、こまえ、リブイン
じぎょうしょうんえい てんかい
さくらの事業所運営を展開してきました。それ
じぎょうしょ りょうしゃ ちいきとくちょう ふ
ぞれの事業所では、利用者さんや地域の特徴を踏ま
うんえい おこな しょう じ こうれいしゃ はばひろ
えた運営を行い、障がい児から高齢者まで幅広い
たいしょう かた しえん おこな
対象の方の支援を行ってきました。しかし、それ
じぎょう かんけつ じぎょうしょかん
ぞれの事業で完結してしまっており、事業所間の
よこ つな よわ ほうじん つよ い
横の繋がりがとても弱く、法人としての強みを活か
すことができていませんでした。

じぎょうしょうどうし よこ つな りかい ふか ほうじん
事業所同士の横の繋がりを理解を深め、法人と
つよ い そしき こうちく
しての強みを活かすことができる組織を構築するこ
ほうじん ながねん かだい
とは、法人にとっての永年の課題でありました。そ
ほうじん ちゅうちょうきけいかく さくせい
ここで、法人ビジョン、中長期計画を作成するた
とうじかくじぎょうしょ かんりしゃ
め、当時各事業所の管理者であったコアメンバー
へんせい やく
でビジョン2023ワーキングチームを編成し、約1
ねん さくてい ほうじん き
年を掛け策定したのが、「ビジョン2023法人の木
けいさい
(22ページに掲載)」「ビジョン2023ステートメン
ト」です。ビジョン2023のアクションプランでの
えがお りょうしゃ
キーワードは、「笑顔(利用者さん)」「ランドマー
ちいき そしき しょくいん
ク(地域)」「組織(職員)」の3つです。これらを
たっせい へんせい
達成するために6つのプロジェクトを編成し、その
そしき そしき
うちの1つが「組織チーム」です。組織チームは
りじちょう ちょう ちょう じむちょう
理事長、ブロック長、エリア長、ブロック事務長で
へんせい じつげん
編成され、ビジョン2023のストーリーを実現する
しどう
ために始動しました。

ねん ねん どだい
2019(R1)年から2020(R2)年は「土台づくり」と
ほうじん いったいか ねん
して「法人の一体化」、2021(R3)年から2023(R5)
ねん ていちゃくてんかい げんき ほうじん
年は「定着と展開」として「元気な法人づくり」、
ねんいこう ほってん げんき すそわ
2024(R6)年以降は「発展」として「元気のお裾分け」

組織チーム 新井 五輪子

いち
と位置づけました。

じつげん
このストーリーを実現するためビジョン2023で
つ せつてい
たどり着きたいゴールを設定し、そのゴールにたど
つ ぐたいてき もくてき かか
り着くために具体的な目的、タスクを掲げました。

つよ そしき
強くなやかな組織をつくるためのストーリー

つよ そしき ほんぶそしき かくりつ
■強い組織をつくるために本部組織を確立し、
きばん せいび
基盤を整備します。

そしき じぎょうしょしょくいん
■しなやかな組織をつくるために事業所、職員、
しゃかい ちいき ゆた
社会、地域と豊かなつながりをつくります。

つよ りょうりん げんき ほうじん
■強く・しなやかを両輪とし、元気な法人に
なります

ねん どだい ほうじん いったいか
2020(R2)年は「土台づくり」の「法人の一体化」
む もと しく たいせい せいび
に向け、タスクに基づいた仕組みや体制の整備
ほうじん こっかくづく じぎょうしょかん つな
と法人の骨格作り、事業所間が繋がるための
しか づく ちゅうしんかつどう しんがた
仕掛け作りを中心に活動しました。また、新型コ
かんせんしょう えいきょう えんき
ロナウイルス感染症の影響により延期した20
しゅうねんきねんしきてん じつげん せいこう む かく
周年記念式典の実現・成功に向け、各チーム
およ しんちよくかんり ねん
のサポート及び進捗管理をおこない、2021(R3)年
がつ かいさい はこ
7月に開催する運びとなりました。さらに、この
いちねんかん とく とお かく
Fes.2020の一年間の取り組みを通し、各チームが
ほうじんほんぶ かなめ ぶしょ せいちょう あら
法人本部の要の部署として成長するために、新た
そしきへんせい ていじ いた
な組織編成を提示するまでに至りました。

おお
Fes.2020の成功をもって、ビジョン2023の大き
もくひょう ひと しゅうりょう そしき
な目標の一つが終了します。これからが、組織
ほうじん ささ どだい つよ
チームが法人を支える土台として強く、しなやかな
りょうりん あら
両輪となるための新たなスタートです。

組織チームメンバー



ぐたいてき もくてき 具体的な目的とタスク		
もくてき なに つよ そしき ■目的(何のため?): 強くなやかな組織をつくる ~はたらくひとたちが誇りに思える職場づくり~		
りょうしゃ せい せいめい せいかつ けんり まも ☆利用者さんの生(生命、生活)・権利を護るため		
しょくいん なつとく はたら ☆職員が納得して働けるため		
ちいき しゃかい ゆた ☆地域・社会と豊かにつながるため		
けいえい あんてい ☆経営を安定させるため		
おも たいしょう だれ ぜんしょくいん ほうじん ひと ●主な対象(誰のため?): 全職員、そして法人にかかわるすべての人		
ねん ●2020(R2)年までにやること: Fes.2020の実現、法人本部組織の骨格作り		
ねんご ねん がつまつ つ ●5年後(2024(R6)年3月末)にたどり着きたいゴール: ほうじんほんぶそしき きのう ~法人本部組織がエンジンとして機能する~		
なに ■タスク(何を?)		
もく てき 目的	やること	ビジョン2023 サポート
りょうしゃ せい 利用者さんの生 (生命、生活)・権利を まも 護る	じぎょうけいぞくけいかく 事業継続計画(BCP)、コン プライアンス(権利擁護)、 だいさんしゃひょうか 第三者評価	えがお しょく 笑顔チーム、食チーム、 じょうほうせんりやくしつ 情報戦略室
しょくいん なつとく はたら 職員が納得して働ける	ろうどうかんきょう せいび 労働環境の整備 ていちゃく りしよくぼうし けんしゅうたいせい (定着、離職防止)、研修体制の せいび いくせい ていきさいよう ていちゃく 整備(育成)、定期採用の定着、 モラルサーベイ	いくせい 育成チーム、 じょうほうせんりやくしつ 情報戦略室
ちいき しゃかい ゆた 地域・社会と豊かにつ ながる	ぼうさいきよてん しせつかいほう ちいき 防災拠点、施設開放、地域への じぎょうてんかい 事業展開	ランドマークチーム、 しょく じょうほうせんりやくしつ 食チーム、情報戦略室
けいえい あんてい 経営を安定させる	ざいむぶんせき けいえいぶんせき しひょうかんり 財務分析、経営分析、指標管理 りょうりつ しゅうえき りしよくりつ (利用率、収益、離職率、 ゆうきゅうしょうか ちょうかきんむ 有給消化、超過勤務)	

これまで 組織チーム

新卒採用プロジェクトのこれから

新型コロナウイルスの流行により、社会的に新卒採用は大きく変化しています。オンライン（WEB）での説明会/選考会の開催や緊急事態宣言中での採用活動など、幅が広がりがらも、社会福祉法人として多くの制限、制約が生じています。そんな状況であっても、足立邦栄会の新卒採用プロジェクトは、法人の合言葉である「Heart to Heart」を大事にし、学生さんに寄り添う新卒採用活動を行っていきたくと思っています。

そして、足立邦栄会に入職していただくためだけではなく、1人でも多くの学生さんが、福祉や介護に関心を深め、福祉の担い手として、社会

で活躍できる人財となることを後押ししていきたくと思っています。そのためには、今以上に、新卒採用プロジェクトの活動を法人内の職員に理解し協力してもらうことが大切です。それが多くの学生さんに足立邦栄会の魅力が伝わるいちばんの取り組みになるのだと思います。

これからも、学生さんにも職員にも「Heart to Heart」な気持ちと、失敗を恐れないチャレンジ精神を持って、このプロジェクトが法人の核のひとつになることを目指して、メンバー一同、頑張っていきたいと思っています！

情報戦略室のこれから

コロナ禍はリモート（離れた場所）でのコミュニケーションの重要性を一気に加速させました。離れている人をつなぐ「情報」を、「戦略」的に扱う重要性が高まっています。

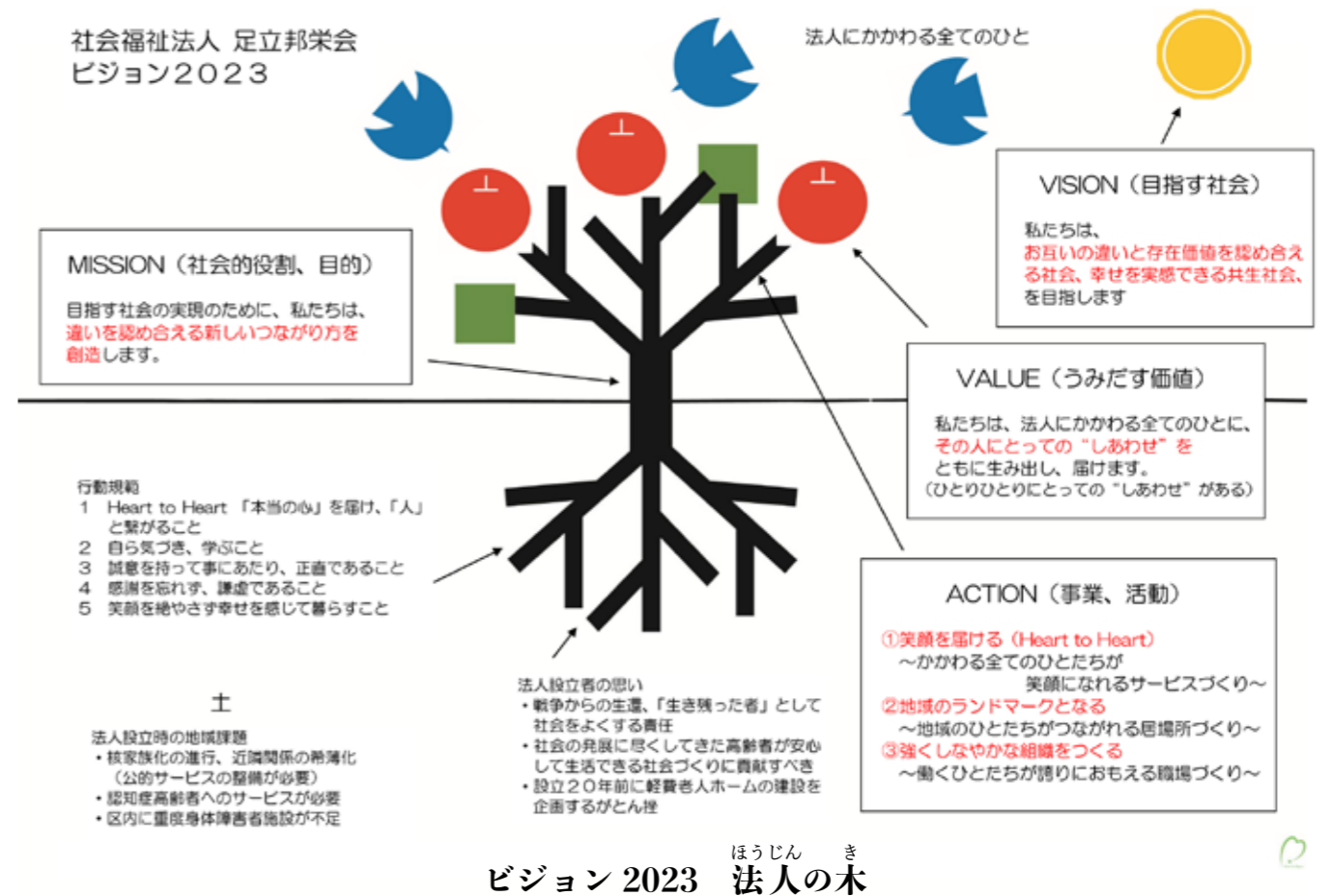
情報戦略室はランドマークチームと協働して、2022(R4)年4月、法人情報マーケティング部へとバージョンアップ（向上、進化）します。地域・福祉業界のランドマークとなることを目指して、法人の取り組みや姿勢（強み）を内外に発信し、地域の安心と職員の“誇り”に繋げることで、地域・社会の豊かさを創造するのが、情報マーケティング部の使命です。魅力ある情報は評判を生み、評判は期待感

を持った人を集め、集まった人はしあわせ（納得感や安心感、充実感）を創り出し、それをまた情報として発信し、必要としている人/知ってもらいたい人のもとに届く～そういう循環を生み出していきたいです。そしていくらリモートでのコミュニケーションが発達しても、私たちが目の前の人々と日々向き合って生まれる、喜びや悲しみ、涙や笑い、葛藤や達成感、理想と現実、そんな五感を総動員した福祉の現場の空気感を伝えられるようでありたいと思っています。

組織チームのこれから

2021(R3)年度、組織チームは経営会議として法人を支えていくこととなります。新たな組織図に基づき、ビジョン2023のチームとプロジェクトが、法人本部の部署として成長するための支えとなっていく予定です。チームメンバーの職員は、各事業所での役割もありますが、その中で各事業所の職員と繋がりを持ちながら活動していくことは、人財（宝）である職員たちが成長し、ひいてはそれが法人の成長にも繋がります。さら

に、一人ひとりが財となり輝くことが、これからの地域福祉、医療、保健に大きな貢献をもたらすと信じています。これからも法人理念とビジョン2023を法人の軸とし、すべての職員が丸となり、一人ひとりがチームの一員として活躍できる組織作りを継続し、「全員経営」を目指していきます。そして、どこでも笑顔と元気があふれる組織となります。



事業所紹介-足立ブロック (1)

特別養護老人ホームさくら



2000(H12)年4月に東京都より設置認可を受け、社会福祉法人足立邦栄会の最初の施設として特別養護老人ホームさくらが生まれました。東京都では初めての障害者施設との併設施設です。特別養護老人ホームさくらは4階建ての2階3階にある従来型施設です(定員60名)。併設の短期入所生活介護は全室個室(定員12名)で、合計72名の方がご利用可能です。「Heart to Heart」を合言葉に、「心の通い合う支援を心の通い合う仲間が提供します」「地域で住み慣れた生活を続けるための福祉拠点の役割を果たします」という法人理念を胸に、日々支援にむきあっています。

この20年間、身体拘束廃止への積極的な取り組みや「食の安全・楽しみを提供する」ことへのチャレンジなど、様々なことに取り組んで来ました。特に、歯科医師による嚥下機能評価とミールラウンドの導入では、嚥下内視鏡検査を用いながら歯科医師と管理栄養士、看護師・介護職員とが連携して入居者さんの食事について話し合い、嚥下機能の確認や誤嚥の危険性・食事提供量の見直しなど、出来る限り経口摂取が続けられるよ



2015(H27)年度には悠翔会在宅クリニック北千住様と提携し、看取り支援体制を構築しました。施設内での治療と暮らしを出来る限り継続し、嘱託医からご家族へきめ細かく病状説明をしていただいています。

- ①人生の最終段階にその方の望む最期に寄り添います。
- ②その方の「尊厳」を守り無理な延命はしません。
- ③施設の職員と嘱託医が連携し、ご本人・ご家族を支えます。
- ④お看取り支援を通して、その方の生きてきた証、「命」を繋いでいきます。

この4点を大事にして、看取り支援にあたっています。



長寿のお祝い

障害者支援施設かえで

2000(H12)年4月措置制度に基づき身体障害者療護施設かえで(現在の障害者支援施設かえで)が、さくらに併設された小規模障害者施設として誕生しました。かえでの基本方針は、Heart to Heartの合言葉のもと、笑顔で生活ができる施設を目指すこと、その人らしい生き方と人生をサポートすることです。日中サービスの生活介護(定員20名)、夜間サービスの施設入所支援(定員10名)、短期入所(定員2名)。それぞれの利用者さんは、特別養護老人ホームさくらやデイサービスセンターさくらの高齢者の方たちと協同しながら生活を

されています。利用者さんは、個別支援計画に基づいて、食事、排泄、入浴、機能訓練、生活相談、レクリエーション、行事、送迎サービスを利用しながら有意義に過ごされています。また居室は全室個室で、電磁調理器などキッチン用品が設備されています。共用廊下とは自動ドアでつながっており、一部の部屋には移動補助具(ホイストレール)があります。運動及び他者との交流のための生活介護とご自分の趣味の時間の施設入所支援を併用し、その人らしい生活を送られています。



かえで一泊旅行(軽井沢)

デイサービスセンターさくら

デイサービスセンターさくらは、2000(H12)年4月に特別養護老人ホームさくらに併設される形で開所しました。概ね片道20分圏内の要介護者や要支援者を対象に、一般型通所介護(定員20名)と認知症対応型通所介護(定員12名)の2事業を行っています。平均寿命が延びるにつれ認知症の方が増え、平均要介護度も上がるようになり、社会から求められる機能や役割も変化してきました。認知症対応型通所介護の地域密着型サービス移行や介護予防の充実、日常生活支援総合事業の開始など、変化するニーズに対応してきた20年でした。

朝食の選択食、豊富な行事、3種類の機械浴を備えた大浴場、土曜日営業、加算外での貯筋体操など、併設事業所ならではの特性を活かした事業運営を続けています。また通所介護の利用者さんが、併設の短期入所のご利用および特別養護老人ホームへのご入所と移れることで、馴染みの場所で馴染みの職員やご家族に支えられながら人生の最晩年を過ごされています。私たちはこれからも地域に根差した福祉拠点の役割を担っていきたくと思います。



夏祭りの太鼓練習

事業所紹介-足立ブロック (2)

きよたくかいごしえんじぎょうしよ 居宅介護支援事業所デイサービスセンターさくら

2000(H12)年4月にさくらとかえでが運営を開始した4年後の2004(H16)年9月、きよたくかいごしえんじぎょうしよ 居宅介護支援事業所デイサービスセンターさくらが誕生しました。

たとえ介護度が重くなっても、可能な限り住み慣れた地域(自宅)でその人らしく尊厳を持って暮らし続けていただきたいという思いから、ごりようしゃほんい そうだんしえん たよう せんもんしよく きょうどう 利用者本位の相談支援や、多様な専門職と協働・連携してサービスを提供することに取り組んできました。利用者さんとなかなか心が通わず信頼関係を築くことに苦労したこと、この支援でよいのだからかと思悩んだこと等、いろいろなことがありましたが、利用者さんやご家族からの「ありがとう」のことばやたくさんの笑顔に支えられて今日の居宅さくらがあります。人と人とのつながりを大切にしながら、ひとりでも多くの方に笑顔と幸せを届けることもくひょう こんご ちいき みなさま あゆ を目標にして、今後も地域の皆様とともに歩んでいきます。



きよたく りようしゃ 居宅さくら～利用者さんと～



ちいきほうかつしえん しかはま そうだん ようす 地域包括支援センター鹿浜～相談の様子～

おこな じつたいはあくほうもんじぎょう に行っています。「実態把握訪問事業」まいにちしよくいん いっけんいっけんほうもん ようす うかが では毎日職員が一軒一軒訪問しご様子を伺っています。

たんとうけんいきじんこう ねん がつ ついたちげんざい 担当圏域人口は2021(R3)年1月1日現在で34,105名、その内65歳以上の方が8,602名で高齢化率は25.22%となっています。現在職員9名で対応しています。(足立区内において面積及び65歳以上人口が多い圏域となっています。)

おも ぎょうむ ないよう 【主な業務内容】

- 健康や介護の相談
- もの忘れが心配な方の相談
- 地域の話し相手を見つける
- 高齢者の権利を守る
- 元気なうちから！運動教室や地域の居場所、活動の場を紹介

あだちくちいきほうかつしえん しかはま 足立区地域包括支援センター鹿浜

あだちくちいきほうかつしえん しかはま 足立区地域包括支援センター鹿浜は、2006(H18)年4月より足立区より委託を受けて業務を開始しました。

ちいきほうかつしえん こうてき こうれいしゃ 地域包括支援センターは公的な「高齢者の総合相談窓口」です。高齢者やご家族の在宅生活における様々なご相談に応じます。年間約2,700件の相談に応じています。介護保険をはじめ、65歳以上の方の様々な相談に乗っており、必要に応じて電話対応だけでなく、訪問も積極的

かいごつきゆうりょうろうじん 介護付有料老人ホームリブインさくら



はなみかい きねんしゃしん お花見会での記念写真

さくら・かえで・みずきの経験から、社会福祉法人の強みとそのノウハウを集結して誕生したのがリブインさくらです。閑静な低層住宅街にあり、4階屋上ルーフテラスからはあたり一面の地域はもちろん、東京スカイツリーや富士山を望むことができます。玄関脇の駐車場にはソメイヨシノ、サトザクラ、オオシマザクラと合わせて10本の桜の木があり、開設時は細かった桜の木も年々成長し、毎春きれいな花を咲かせて楽しませてくれます。

館内は、天井・壁には保温・調湿効果がある珪藻土、床は桜材、壁に和紙クロスなどの自然素材を使用、電球色の間接照明がより温かみを感じていただける造りとなっており、時間の経過とともに更に深みが増したように思います。各フロアのアイランドキッチンでは食事の都度、炊飯や盛り付けの香りや食器を洗う音を響かせ、生活感あふれる支援を心掛けています。

居室は1～3階に41室。2.2平米以上の広さがあり、居室内のトイレは重介護の方までがトイレに座れるよう前手すりを備え、ベッド脇にはロールカーテンを設置し安眠できるよう配慮しています。

入浴も同様に、浴室はフロアごとに配置しすべて個別であり、支援が必要な方へ週3回の入浴支援を提供し続けています。入居者さんの状態に関わらず、ご自分の時間やご家族との時間など、プライベートを大切に考えた個別支援を提供するとともに、複数の協力医療機関と連携しながら、医療依存度が高い方や終末期を迎える方の最期までの支援にも力を入れて取り組んでいます。

最後に活動の充実です。毎日の体操・口腔体操。制作活動や料理クラブは作る楽しみ・食べる楽しみだけでなく、指先を使うことで作業療法につながります。他にもカラオケ・映画上映会。近隣の買物・外食や月行事と、多様なイベントを企画しています。日常生活に彩りを添えながら、無理なく身体を動かし、日々の積み重ねで予防効果が得られるよう工夫をしてきました。

10年在籍の経験豊かな職員も多く、職員を身近に感じていただけるアットホームな雰囲気があります。魅力の介護付有料老人ホームです。



おくじょう きぶんでんかん 屋上で気分転換

事業所紹介-多摩ブロック (1)

しょうがいしゃしえんしせつ 障害者支援施設みずき

ふちゅうし ちょうふし みたかし
府中市、調布市、三鷹市にまたがる、かつて
かんとうむらよ べいぐんしせつ あとち げんざい ふくししせつ
関東村と呼ばれた米軍施設の跡地、現在は福祉施設
あじもと むさしの もりそうごう
をはじめ、味の素スタジアムや武蔵野の森総合
しせつ こうえん びょういん
スポーツプラザなどのスポーツ施設、公園、病院、
がっこう こうきょうしせつ あつ
学校など公共施設が集まるエリアにみずきはあり
ねん がつ かいせつ がつ
ます。2003(H15)年12月に開設しました。12月
にゆうしよとうじ しんたいしやうがいしやりようごしせつ い
に入所(当時は身体障害者療護施設と言いまし
げんざいしせつにゆうしよしえん せいかつかいごいち よくねん
た。現在は施設入所支援/生活介護Ⅰ)が、翌年
がつ たんきにゆうしよ がつ げんざい
2月に短期入所が、4月にデイサービス(現在
せいかつかいごに げんざい
は生活介護Ⅱ)がスタートしました。現在は、
しいたくがたんきにゆうしよ にっちゅういちじしえんじぎょう
市委託型短期入所と日中一時支援事業、
じゅうしやうしんしんしやうがいじしや つうしよじぎょう じっし
重症心身障害児(者)通所事業も実施し
ています。

とうきやうとない りようごしせつ たんどく じつ
東京都内の療護施設としては、単独では実に
ねん みんせつみんえいかわ とないはつ
22年ぶり、これに民設民営が加わると都内初とい
とうきやうと しんたいしやうがいしやふくし てんかんでん たんじやう
う、東京都の身体障害者福祉の転換点に誕生
しせつ えーえるえす きんいしゆくせいそくさくこうかしやう
した施設です。ALS(筋萎縮性側索硬化症)
せんようきよしつ も いりやうてき ひつやう かた ふく
専用居室を持ち、医療的ケアの必要な方も含
じゆうど しんたいしやうがいしや りやう
めた重度の身体障害者が利用されています。
ぜんしつこしつ どうせいはいじよ とうきやうとりやうごしせつ きず
全室個室、同性介助など、東京都の療護施設が築
しやう しや けんり まも れきし う つ
いてきた障がい者の権利を護る歴史を受け継ぎつ
あたら じだい む けつみ み ふなで
つ、新しい時代に向かう決意に満ちた船出でし
くに せいど とし がつ そちせいど
た。国の制度もこの年の4月、それまでの措置制度
りやうしや じぎやうしや たいとう たちば けいやく むす
から、利用者と事業者が対等な立場で契約を結ぶ
しえんひせいど いこう ねんまえ
支援費制度に移行したばかりでした。その4年前
せつりつ あだちほうえいはい おお
に設立されたばかりの足立邦栄会にとっては大き
おも
なチャレンジだったと思います。

たてもの
みずきの建物は、「レジデンス」と「アクティビティ
ハウス」、「アネックス」にわかれています。「レジ
にゆうきよりやうしや たんきにゆうしよりやうしや せいかつ
デンス」は入居利用者、短期入所利用者が生活



かいせつとうしよ やうす
開設当初のみずきの様子

ひらや たてもの いむしつ
する平屋の建物です。ケアステーションや医務室を
ちゆうしん
中心に、さくら・こすもす・つばき・ひまわりと
なづ かく
名付けた4つのユニットがあります。各ユニットは
ちゆうしん しつ
リビングダイニングスペースを中心に、8~9室の
こしつ こうせい にゆうきよ しせつにゆうしよしえん
個室で構成されています。入居(施設入所支援/
せいかつかいごいち とうきやうとぜんいき りやうたいしやう
生活介護Ⅰ)は、東京都全域が利用対象となりま
たんきにゆうしよ せいかつ ばめん しえん
す(短期入所も)。生活のあらゆる場面の支援を、
ひとり こべつしえんけいかく もと ていきやう
一人ひとりの個別支援計画に基づいて提供していま
かいしよ ねんいじやうた はんぶんいじやう
す。開所から17年以上経ちましたが、半分以上
にゆうきよしや かいせつとうしよ りやう
の入居者さんは開設当初から利用されており、
おお にゆうきよしや だいに こきやう く
多くの入居者さんにとって第二の故郷としての暮
ば
らしの場になっています。

いた わた ろうか
「アクティビティハウス」に至る渡り廊下は、
にゆうきよりやうしや おおやけ わたくし わ
入居利用者の「公」と「私」を分けようとい
いと
う意図があります。そのアクティビティハウスの
かい にゆうきよ つうしよきやうよう よくしつ じむしつ
1階は、入居・通所共用の浴室、事務室、そし
りやうしや さまざましよくけいたいしよく たいおう
て利用者さんの様々な食形態や食のニーズに対応
ちゆうぼう かい つうしよ りやうしや
する厨房があります。2階は通所の利用者さんが
りやう ちゆうしん にゆうきよ つうしよきやうよう
利用するデイルームを中心に、入居・通所共用
かつどうしつ きのうかいふくくんれんしつ つうしよ
の活動室、機能回復訓練室などがあります。通所
せいかつかいごに ふちゆう ちやうふ みたかし す
(生活介護Ⅱ)は、府中・調布・三鷹市にお住ま



した りやうしや みな
シンボルツリーの下でくつろぐ利用者の皆さん

かた りやうたいしやう いたくうこう
いの方を利用対象とし、みずきが委託運行する
そうげいしや つうしよ りやうしや にゆうよくしよくじ
送迎車で通所された利用者さんに、入浴、食事、
にっちゅうかつどう ていきやう
日中活動などのサービスを提供しています。
しよくいん かいぎしつ きゆうけいしつ しつとうせつち
職員の会議室、休憩室、ロッカー室等設置の
ねん ぞうちく
ため2009(H21)年に増築した「アネックス」は、
ねん ぞうちく かいしゆう
2020(R2)年にさらに増築・改修して、みずきの
ちいきこうりゆう きよてん きつき てんじ はんばい
地域交流の拠点にすべく、喫茶、展示・販売、
たもくてき こうりゆう きのう も かふえ あつと
多目的な交流スペース機能を持つ「café at」
たんじやう
が誕生しました。

なかにわ かいせつ さい いしよく
中庭には、みずき開設の際に移植した、このあた
いちばんおお さくら き まいとしはる みごとはなり
りで一番大きい桜の木があり、毎年春には見事な花



ねん かふえ あつと
2020(R2)年にオープンしたcafé at



かふえ あつと てんない やうす
café at 店内の様子

き
を咲かせており、みずきのシンボルとなっています。
こくれん しょうがいしや けんりじやうやく
国連の障害者の権利条約にもあるように、ど
しやう じぶん く ばしよ
んな障がいがあっても、自分の暮らしたい場所は
じぶん えら しやかい む
自分で選べるような社会にもっと向かうべきです。
すがた むね きざ
そのようなあるべき姿を胸に刻みながらも、みず
にゆうしよぶぶん じゆうど しんたいしやうがいしや
き(入所部分)が重度の身体障害者にとつ
あんしん く ば そんざいいぎ
て安心して暮らせる場であるなら、その存在意義
おも にゆうきよ つうしよ
はあるのだろうと思います。入居も通所も、
ぜんしよくいんいちがん ひびりやうしや せいかつ
全職員一丸となって日々利用者さんの生活を
ぜんりよくさき けつみ か
全力で支えていく決意はこれからも変わりません。

事業所紹介-多摩ブロック (2)

こまえ 狛江エリア



こまえ ひと たてもの じぎょうしょ
 狛江エリアは一つの建物・事業所ではなく、こまえし あだちほうえいかい うんえい じぎょうしょ そうしょう 狛江市にある足立邦栄会が運営する事業所の総称 ぜんこく ばんめ ちい し こまえし なか です。全国で2番目に小さい市である狛江市の中 おも しんたいしょう かた せいかつかいご で、ポンテ（主に身体障がいの方・生活介護 ていいん めい こまえ 工房 おも ちてきしょう =定員20名）、こまえ工房（主に知的障がい かた せいかつかいご ていいん めい しゅうろうけいぞくしえん の方・生活介護=定員20名・就労継続支援 びーがた ていいん めい そうだんしえん B型=定員20名）、相談支援センターみずき（相談支援事業）、あいとぴあ日中一時支援室（相談支援事業）、あいとぴあ日中一時支援室（定員2名）、みずきケアセンター 狛江（定員2名）、みずきケアセンター 狛江（居室介護・重度訪問介護・移動支援）、グループホーム パンダ（知的障がいの方・きょうどうせいかつえんじょ ていいん めい 共同生活援助、定員5名）、こまほっとシルバークン相談室 多摩川住宅（高齢者見守り相談窓口）の事業を行っています。狛江市健康福祉会館「あいとぴあセンター」に、ポンテ、みずきケアセンター 狛江、あいとぴあ日中一時支援室が、こまえ工房と

そうだんしえん おな たてもの
 相談支援センターみずきが同じ建物に、こまほっとシルバー相談室 多摩川住宅が多摩川住宅付近の建物にそれぞれ入っています。パンダはオーナーさんが暮らしていた一軒家を改修して使わせてもらっています。こまえしちよくえい くんれんしつ じだい やく ねん れきし 狛江市直営の訓練室の時代から約50年の歴史があるポンテは、2005(H17)年4月に、狛江市のいたくじぎょう うんえい こまえししやかいふくし 委託事業としての運営を狛江市社会福祉協議会から引き継ぎました。2012(H24)年には、生活介護事業に移行し、身体障がい者が、自己実現と社会参加のために毎日意欲的に通っています。ポンテは多摩川に近いあいとぴあセンターの4階にあり、多摩川の豊かな自然や富士山も見えてながよ 眺めの良いところです。またあいとぴあセンター前の道路沿いや多摩川の土手は、桜並木が毎年見事な花を咲かせます。

2009(H21)年には「狛江市手をつなぐ親の会」から、市内3か所で運営していた作業所を、法内事業に移行するため、こまえ工房として運営を引き継ぎました。そして2017(H29)年には、狛江駅近くの市の建物に移って、念願の一体化となりました。「狛江市手をつなぐ親の会」やたくさんの方々の思いを大切に、これからも地域で暮らす知的障がい者の活躍の場であり続けたいです。また2012(H24)年には、市の緊急一時保護事業、あいとぴあ日中一時支援室として運営を開始するなど、狛江エリアは日中活動支援の事業所を中心に、既存の事業を引き受けながら成長してきました。

2009(H21)年、府中市のみずきで開始した相談支援センターみずきは、2012(H24)年、狛江市（あいとぴあセンター内）に移動し、計画相談・障害児相談・一般相談等、障がいを持つ人が自立した日常生活 又は 社会生活を行うことができるように、様々な相談を受けたりサービスの調整をしたりしています。

2017(H29)年にはこまえ工房と同じ建物に移動、



こまえ工房正門前販売

2020(R2)年には、狛江市の医療的ケア児支援コーディネート事業を受託しました。

2015(H25)年にはグループホームパンダを開設しました。平日昼間は日中活動に通い、夜間はグループホームで過ごすことで、住み慣れた地域での生活の継続ができています。

みずきケアセンター 狛江は、2015(H25)年に開始したヘルパー派遣の事業所で、現在は主に在宅で家事や身体介護などを行う居宅介護事業と、外出を支援する移動支援事業を行っています。

2018(H30)年には、地域で暮らす高齢者の見守り相談を行う事業として、こまほっとシルバー相談室 多摩川住宅を受託しました。

このように、狛江エリアは利用者さん・住民の地域での生活を、トータルにサポートできる事業を展開しており、狭い地域だからこそ、しっかりと連携をとりながら支援しています。

これからも、地域と連携を取りながら、地域で住み慣れた生活を続けるための支援を行っていきたくおも と思っています。



ポンテの活動の様子

事業所紹介 多摩ブロック

事業所紹介 多摩ブロック



20th anniversary

足立邦栄会設立のきっかけ、戦後の日本社会

新井 五輪子

「戦争で苦労した人の老後が報われるように」
そんな父・邦夫の想いが、法人設立のきっかけに。

足立邦栄会設立のきっかけは、初代理事長である父・邦夫の戦争体験にあります。戦時中は戦地へ出向き、そこで部下を亡くし、さらには捕虜生活を一年経験するなど過酷な体験をした人です。日本へ帰国するものの長野の実家は兄弟が多く、当時の日本はまだ家督相続の時代だったため、末っ子の父には仕事がありませんでした。そのような理由から、足立区皿沼の地に知り合いを頼ってやってきたのです。そこで母のとしと結ばれ、夫婦養子として二人で農家を始めたのが、父が20代後半だった頃のことです。しかし、物事はそううまくは運びません。戦後の皿沼には古い村の体質が色濃く残っていて、戦時中に近衛兵という位の高い兵であったことから父は、妬まれ、苦労する日々が続いていたようです。

1964(S39)年の東京オリンピック開会式を見て、「戦争で苦労した人のために」と決意したあの日。苦労の絶えない日々が続きましたが、父には先見の明があったのでしょうか。農地を少しずつ転換し、アパートなどの不動産経営を始めました。そうして次ぎの事業として着手を考え始めたのが、老人ホームの運営でした。なぜ老人ホームだったかというのと、1964(S39)年の東京オリンピックの開会式をテレビで見ただけです。戦争が終わった時、これまで命のように大切に生きてきた日の丸の国旗を戦地で燃やしたそうで、国に命を捧げてきた父にとってはどんなに辛かったことでしょうか。そんな特別な思いを持



邦夫・とし夫妻 マチュピチュにて

つ日の丸を掲げ、会場へ入場する日本の選手たちを見て「戦後復興は本当に終わったんだ。これからは、戦争で苦労してきた人の老後が少しでも良くなるようなことをしたい」そう思ったのだそうです。戦時中、生きるか死ぬかというぎりぎりの精神で戦ってきた父は、戦後は希望を失いつつあったのですが、この時、新たな生きる目的を見つけたよう

です。新たな目的を見出した父は、今から40年ほど前、老人ホーム設立に向けて動き出しました。当時はさまざまな老人ホームを見学し、どのような施設を作るのか構想を膨らませ、設立趣意書も用意していたようです。

しかし、老人ホームを建設しようと考えていた土地には多くの地権者が関わっていて、何百人という莫大な数の同意を得る必要がありました。そこで計画はやむなく中止となってしまったのですが、20年後に再び動き出すことになるのです。

さくら・かえでの開設

新井 五輪子

関東初の、高齢者と障がい者が共に暮らす支援施設。
地域の声に応えるべく、設立の道へ。

老人ホーム建設の最初の計画から20年経った頃、父は主に貸し農園事業を営んでいました。小さな区画の農地を地域のみなさんにお貸しするというもので、足立区では初めてのことであったようです。その頃、30代にさしかかっていた私は、父の事業を引き継ぐ準備を少しずつしていこうと考えていました。しかし、畑仕事をしたことのない私には、貸し農園を続けていくことは難しい。一生続けていくことができる仕事は何だろう。そう考えた末にたどり着いたのが、老人ホーム運営でした。そのことを相談すると「実はお父さんもね、20年前に同じことを考えていたんだよ」と父が打ち明け、当時の設立趣意書を見せてくれたのです。父がその昔、私と同じ夢を描いていたことを、その時に初めて知ったのでした。

そして、親子二代にわたる夢の実現に向けて走り出しました。その頃、このような施設を建てる時には、隣接する民家に暮らす住民の同意が必要でした。近隣の方は「こういう施設は大事だね」とおっしゃってくれたものの「自分の家の隣に建つのは、ちょっと」という声も挙がりました。当時はまだ介護保険制度ができる前。認知症を痴呆症と呼んでいた頃で、その症状をきちんと理解している方は少なく、理解を得ることは簡単ではなかったのです。そこで、お金の面で苦労をしましたが、隣接する民家の土地をすべて買い取り、特別養護老人ホーム設立の計画が本格的にスタートしました。



さくら・かえで 開所式の様子

計画書を足立区へ持っていくと、都内にしようがいしゃしえんしせつ 不足している、足立区にもほとんどない、というお話を聞くことになりました。同じ施設の中で、障がいのある方も一緒に暮らすことはできるはず。考えた末に、特別養護老人ホームさくらと障害者支援施設かえでを、同じ建物の中に併設することに決めました。区が後押ししてくれたこともありましたが、何よりも地域のニーズに応えていくことが使命ではないかと考えたからです。今でこそ高齢者と障がい者が共に暮らす施設は増えていますが、当時は関東で初めてのことで、定員10名という規模で、同じフロアに両者が暮らす施設は少ないようです。

歴史 さくら・かえでの開設

みずきの開設

ふかさわ かつひこ
深澤 勝彦

利用者さんと共にみずきを築き、17年。
今後は「Heart to Heart」の想いを地域にも。



障害者支援施設みずきは、2003(H15)年12月に身体障害者療護施設として誕生しました。私はもともと別の療護施設で働いていた

のですが、足立邦栄会が新たに障がい者向け施設を立ち上げるという話を聞き、施設立ち上げ時から参画しました。初代理事長と現理事長に初めて会った時に、法人設立の経緯や「Heart to Heart」に込められた想いを聞き、感銘を受け、ここでまた一か

らやってみたい。そう決意したことを昨日のこのように覚えています。立ち上げ時に補助金をいただいていたので、開設当時は特に補助金受け取りのための報告書など資料作りに追われる日々。現理事長や相談員の伊藤さん（現在の足立ブロック長）も駆

けつけてくれ、毎日夜遅くまで残って仕事をしました。夜中にお腹が空いてしまって、みんなで近くの店で焼肉丼を食べに行ったこともあり、今となっては懐かしい思い出です。

開設当時、一番苦労したのは職員の採用でした。特に看護師の募集には苦労したことを覚えていますが、徐々に、今の看護リーダーが来てくれた頃から落ち着き始め、安定して施設を運営していくことができるようになり、利用者さんもどんどん増えてい

きました。その中には、みずきの開設当時からいらっしゃる方もいて、17年以上のお付き合いをしている方もいらっしゃいます。その方と挨拶をしたり、お話をしたり、時には「ありがとう」という言葉を

かけてもらったりすることは、何にも代えがたい嬉しい瞬間ですね。開設当時は本当に大変な毎日が続きましたが、少しずつかたちになっていく嬉しさは、立ち上げに携わる全員が感じていたのではないのでしょうか。



シンボルツリーの移設作業の様子

利用者さんを支援する上で、信頼関係はとても大切です。今後もみずきでは、職員と利用者さん、ご家族との間にしっかりと信頼関係を築きながら、家族のようなあたたかい支援を続けていきたいと考えています。法人が20周年を迎えた2020年、利用者さんはもちろん、職員も地域の方も、誰もが利用できるカフェを施設内にオープンしました。施設近辺はもともと公共施設が多く、地域住民の方とふれあう機会がなかなか持てなかったのですが、今後は地域とのつながりを少しずつ深めていき、「Heart to Heart」の想いを広めていけたらと思っています。

ポンテの開設

おおにた たえこ
大仁田 妙子

「ひとりを大切に」お互いを励まし、高め合う。
この先も「仲間力」で、利用者さんと共にポンテを育てていく。



ポンテは、狛江市が1972(S47)年に開設した障がい者向け自立支援施設です。1996(H8)年に社会福祉協議会が運営元とな

ったことを機に「ポンテ」という名称に変更され、足立邦栄会の一事業となったのは2005(H17)年のこと。施設名はもちろん、利用者さんもそのまま引き継ぎ15年間、運営を続けてきました。開設時は在宅での支援が難しい障がい者の方に向けた一時的な訓練室として運営を始めたのですが、時代の流れと共にポンテは徐々に、重度の身体障がいを持つ方へ向けた通所の自立支援施設へと変わっていきました。

私がここで働き始めたのは20年ほど前になりますが、10年ほど前から「意思決定支援」という言葉が言われるようになりました。今では当たり前ですが、利用者さんが主体的に取り組む、という支援のかたちが変わっていった時代の変革期としていくのか、どうやって主体的な取り組みをしていくのか。そんなことを職員はもちろん、利用者さんも真剣に考えるようになってきました。多くの思い出がありますが、特に印象的なのは、こうほうし たんとう りょうしゃ はなし 広報誌でコラムを担当している利用者さんのお話です。「広報誌にコラムを書きたい」とおっしゃったのですが、当初はなかなかうまくいかず、職員

に頼りっぱなしだったのです。それがだんだんと自信がつき、自分の考えを自分の言葉で表現できるようになり、そのうち誰も手助けしなくてもみんなの心をほっこりさせるコラムを書けるようになりました。それまで10年かかりましたが、こういう方がもっとも増えていったらと思っています。



足立邦栄会へ移行時の説明会

ポンテでは毎年、表彰式を行っているのですが、その時には利用者さんも職員も関係なく全員が表彰されます。年齢も立場の違いも超えて、お互いを褒め合うのです。ミュージカル発表会でも、本番に向けて励まし合い、よし、がんばろう。ときも たか なかまりよく たいせつ 気持ちを高める。そんな「仲間力」を大切にしています。ほっとけない精神が強い利用者さんが多く、彼らから本当にたくさんのお話を学び、利用者さんと一緒にポンテを育ててきた、という想いが強いです。法人20周年を迎えた今、利用者さんと力をあわせて、ポンテが原動力の一つとなり、楽しさだったり、元気だったり、そういったパワーを広めていきたいと思っています。

歴史

みずきの開設

歴史

ポンテの開設

リブインさくらの開設

いとう ごう
伊藤 剛

支援方法も職員の働き方も、ゼロから作り上げる。
法人にとって新たな挑戦となった、リブインさくら。



リブインさくらが誕生したのは、2007(H19)年のことです。入浴時にリフトを使うなど障がい者施設しえんほうほうの支援方法を取り入れたり、職員しよくいんのコミュニケーションを第一に考えた建物の構成にしただいちかんが たてもの こうせいり、開設時からさまざまな試みに挑戦してきました。開設時の中核メンバーは、他の法人で老人ホーム立ち上げに参画し、その後に戻ってきたという経験も持つ出戻り職員が多く、私もそんな一人です。そのため、自由で新しい発想をどんどん取り入れながら、ここまでリブインさくらを築き上げることができました。



開所式の様子

開設後は料金体系の見直しをしたり、介護の方法や職員の働き方について自分たちなりのかたちを探したり、模索し続けた一年でした。社会福祉法人ならではの介護力がありながら、手厚い人員配置。準夜勤制度を取り入れるなど、徐々に介護の方向性や働き方が定まっていきました。そうして口コミで評判が広まり、

利用者さんが増えていったのは二年目以降のこと。2011(H23)年の震災時は、利用者さんも職員もほとんどフロアに集まっていて、出先にいた私は、電話越しで被害がなかったことを確認し、ほっと胸をなでおろしたことをよく覚えています。計画停電の対象地域となったため暗闇の中、他の施設から食事を運んだこともありましたが、今となってはいい思い出です。

入所当初は医療支援を必要としていなかった方も、だんだんと年月を重ね、徐々に医療支援が必要となっていきます。そうして、施設で最期の時を迎えます。ご家族以外には関われないところまで足を踏み入れることができるのは、この仕事のおもしろさであり、やりがいだと感じている職員は多いでしょう。しかし、人と人のぶつかり合いでもあるこの仕事は、正解や終わりが無い仕事。成果を感じにくい仕事であるため、リブインさくらでは、職員一人ひとりが自分の存在意義を感じる事ができる働き方を大切にしてきました。利用者さんが10人いれば10通りの生き方があります。自分の理想を貫き通すのではなく、利用者さんの理想の暮らしをサポートしていかなければなりません。理事長は経営者でありながら、誰よりも利用者さんの目線を持てる人。その想いをしっかりと受け継ぎ、これからも仲間と共に利用者さんの支援を行っていったらと思っています。

こまえ工房の開設

ちかおか まさと
近岡 真佐人

利用者さんと共に歩んできた、こまえ工房の歴史。
自分らしく、笑顔でいられる場所をめざして。



こまえ工房は、もともと「狛江市手をつなぐ親の会」が運営していた施設で、狛江市内の障がいを持つ方向けに作業所としてスタートしました。2009(H21)年、三ヶ所あった作業所の運営を足立邦栄会がすべて引き継いだことを機に、今の名称となりました。その後しばらくは別々の場所で運営していたのですが、2017(H29)年12月に全施設が一体化しました。私自身は作業所時代からここで働いていて、かれこれ15年ほどこの業界にいますが、私にとっても、こまえ工房にとっても、一番の大きな変化は、一体化したことだと思います。その前はそれぞれの施設が独自の運営を行っていたため、利用者さんの特徴は異なりまして、ニーズも幅が広がったため、それを一つにまとめることは本当にできるのだろうか、という不安がとてもしばしば覚えています。そんな中、一体化することへの期待も大きかったですね。実際に一体化してみると、これまでよりも職員が同じ拠点で働くことができるため、チームワークも良くなりましたし、支援のやりやすさにも変化があり、良い意味で利用者さんはこれまでどお通り作業を続けていくことができ、本当に良かったなと思います。利用者さんは、私と同じように作業所時代からいらっしゃる方も多く、15年働いている私よりも長く通っていらっしゃる方も。「面接の時に、スーツで来ていたよね」なんて、私

が就職の面接へ来た時のことを覚えている方もいらっしゃると思います。私自身、引っぱっていくリーダータイプではないと思っていて、こまえ工房は利用者さんや職員、地域と共に作ってきたという感覚が大きいんです。



こまえ工房もえぎでの作業の様子

最近、こまえ工房に長年通っていたものの自宅での生活が難しくなり、市外のグループホームへ入所する、という方も増えてきました。毎日いらっしやっていた方がいなくなる寂しさもありますし、利用者さんやそのご家族にとっても、住み慣れた施設や地域にいらなくなる悲しさでいっぱいだと思います。長年この仕事をしているとふと寂しくなる時もありますが、利用者さんの笑顔を見ることができたり、作業を通じて自信を得る姿を見ることができたりすると、この仕事をしていて良かったと思うことができます。今後もこまえ工房は、利用者さんがありのままの自分でいられる場所をめざして、利用者さんと共に、自分たちのペースでゆっくりと歩んでいけたらと思っています。

あだちほうえいかい 足立邦栄会のこれまでと今後

あらい いわこ
新井 五輪子

おお ひと ささ あゆ あだちほうえいかい
多くの人に支えられ、歩んできた足立邦栄会。
ささき とも く とも い
この先も共に暮らし、共に生きていく。



ねんど にゅうしゃしき
2021(R3) 年度オンライン入社式

ほうじんせつりつご つい すみか わたし しせつ す
法人設立後、終の棲家として私たちの施設で過
おお りようしゃ み
す多くの利用者さんを見てきました。しかし、その
かた さいご とき しせつ むか
方たちが最期の時を施設で迎えることができない
じょうきょう いきどお かん ひ
状況に、憤りを感じていました。そんなある日、
さい たんじょうび むか りようしゃ
100歳のお誕生日を迎えられたばかりのある利用者
さんがだんだん食事をとれなくなり、入院し、しば
た な いたい しせつ かえ
らく経って亡くなられ、ご遺体となって施設へ帰っ
てこられたことがありました。お顔を見ると、いつ
おだ やき かた べつじん
も穏やかで優しくの方が別人のようになってい
みけん しわ よ くち じ ま
たのです。眉間に皺が寄り、口をへの字に曲げてい
つら め あ
ました。どんなに辛い目に遭ったのでしょうか。そ
とき さかい りようしゃ いき ひ と しゅんかん
の時を境に、利用者さんが息を引き取るその瞬間
わたし しせつ みまも おも
まで私たちの施設で見守っていききたい。その想いが、
つよ
強くなっていきました。

じょうきょう おお か
そんな状況が大きく変わったのは、2015(H27)
ねん ほうりつつき にゅうきよしゃ
年のことです。ようやく法的に同居者さんへの
ざいたくしんりょう みと じだい さいご とき
在宅診療が認められる時代となり、「最期の時を
じたく じぶんじしん き ばしょ じぶん じゅみょう な
自宅や自分自身で決めた場所で、自分の寿命で亡く
しえん おも
なるように支援したい」という想いのある医療機関

りじちようせんせい であ せんせい きょうりよく
の理事長先生に出会いました。その先生の協力を
え しせつ とくべつようごろうじん みと
得て、施設（特別養護老人ホーム）で看取りをした
さいしぼうしんだんしょ さくせい
際の死亡診断書を作成していただけるようになり、
とくべつようごろうじん みと
特別養護老人ホームさくらでもいよいよ看取り
しえん
支援ができるようになったのです。

あだちほうえいかい ねん
足立邦栄会は、1964(S39)年のオリンピック
かいかいしき み な ちち せつりつ けつ
開会式を見て、亡き父が設立を決意したことから
ねんとくきょう
スタートしました。2020(R2)年東京オリッ
えんき
ク・パラリンピックは延期となってしまいました
そうりつ しゅうねん むか あら けつ
が、創立20周年を迎え、新たな決意を持って
ちいき しゃかい こうけん おも
地域や社会に貢献していきたいと思っています。
きんりんちいき ひとりせたい かた ひんこんせたい かた ひんこん
近隣地域の一人世帯の方や、貧困世帯の方、貧困で
くる こ む わたし なに
苦しむお子さんなどに向けて、私たちに何かできる

かなが まいにち
ことはないかと考える毎日です。そして、やはり
さいしゅうてき おも さいごしゅんかん ひと おも
最終的に思うのは、最期の瞬間まで、その人の思
とお い こうれい かた
う通りに生きてほしい、ということです。高齢の方
たい しょう も かた たい おも
に対しても、障がいを持つ方に対しても、その想
か かた
いは変わりません。そういった方たちによりそい、
ささ かんたん とも はたら
支えていくことは簡単なことではなく、共に働く
しよくいん かんけいしゃ ちいき
職員や関係者のみなさん、地域のみなさん、さら
りようしゃ かぞく きょうりよく
には利用者さんやそのご家族の協力なしでは20
しゅうねん むか
周年を迎えることはできませんでした。すべての
であ かんしゃ おも こんご ほうじん
出会いに感謝の想いでいっぱいです。今後も、法人
ささ かた とも は一と とう
を支えてくださるすべての方と共に「Heart to
は一と おも たいせつ とも あゆ
Heart」の想いを大切にしながら、共に歩んでいけ
ねが
ることを願っています。

えん かく 沿 革

- 1996 (H8) 年 10 月 足立邦栄会設立準備会発足
- 1999 (H11) 年 1 月 21 日 社会福祉法人足立邦栄会 [東京都設立認可を受け発足]
新井邦夫理事長就任
- 2000 (H12) 年 4 月 [東京都より認可を受け事業開始]
特別養護老人ホームさくら／身体障害者療護施設かえで／デイサービスセンターさくら
(併設型通所介護)／デイルームさくら(認知症対応型通所介護)／ショートステイさくら
(短期入所生活介護)／デイサービスセンターかえで(身体障害者デイサービスセンター)
ショートステイかえで(身体障害者短期入所事業)
- 2001 (H13) 年 6 月 デイサービスセンターさくら及びデイルームさくらを統合し、
デイサービスセンターさくらとする(併設通所介護／認知症併設通所介護)
- 2003 (H15) 年 12 月 身体障害者療護施設みずき
- 2004 (H16) 年 2 月 ショートステイみずき(身体障害者短期入所事業)
- 2004 (H16) 年 4 月 デイサービスセンターみずき(身体障害者デイサービス)
- 2004 (H16) 年 9 月 デイサービスセンターさくら(居宅介護支援事業所)
- 2005 (H17) 年 4 月 狛江市重度身体障害者通所訓練室ポンテ
- 2006 (H18) 年 4 月 新井邦夫会長就任・新井とし理事長就任
- 2006 (H18) 年 4 月 地域包括支援センター鹿浜
[介護保険法改正により地域密着型事業所に指定]
デイサービスセンターさくら(認知症対応型通所介護／介護予防認知症対応型通所介護)
ショートステイさくら介護予防事業／デイサービスセンターさくら介護予防事業
みずき日中一時支援事業
- 2006 (H18) 年 10 月 介護付き有料老人ホーム リブインさくら
- 2007 (H19) 年 4 月 多機能事業所 こまえ工房こもれび・こだち・もえぎ(生活介護 就労継続支援B型)
- 2009 (H21) 年 4 月 相談支援事業みずき
- 2009 (H21) 年 7 月 [障害者自立支援法本則適用に伴い障害者支援施設に指定]
障害者支援施設かえで(生活介護 施設入所支援)
障害者支援施設みずき(生活介護 施設入所支援)
- 2011 (H23) 年 5 月 心身障害者(児)委託型ショートステイ
- 2012 (H24) 年 4 月 こまえ工房から狛江活動センターに名称変更し、重度身体障害者通所訓練室ポンテを追加
(こもれび・こだち・もえぎ・ポンテ)
- 2012 (H24) 年 7 月 相談支援事業再編(一般相談支援、特定相談支援、障害児相談支援)、名称を
相談支援センターみずきとし、事業所を府中市から狛江市へ移動
- 2012 (H24) 年 10 月 あいとびあ日中一時支援室
- 2013 (H25) 年 1 月 パンダ(共同生活介護事業)
みずきケアセンター狛江(居宅介護、重度訪問介護・移動支援)
- 2017 (H29) 年 6 月 新井五輪子理事長就任
- 2017 (H29) 年 12 月 狛江活動センター再編
こまえ工房(生活介護 就労継続支援B型)(こもれび、こだち、もえぎ一体化)
生活介護事業所 ポンテ(生活介護)
- 2018 (H30) 年 8 月 狛江市こまほっとシルバー相談室多摩川住宅
- 2019 (R1) 年 5 月 みずき生活介護Ⅱに東京都重症心身障害児(者)通所事業追加
- 2020 (R2) 年 4 月 狛江市医療的ケア児支援コーディネート事業

※事業名は、当該事業の開始または受託を表します。

20周年に寄せて

おもいで20年

あだちほうえいかい せつりつ げんりじちよう
足立邦栄会の設立については、現理事長のあらいいわこしはつあん しょだいらじちよう新井五輪子氏発案により、初代理事長であるあらいくにおし だいにだいらじちよう あらい し新井邦夫氏、第二代理事長となる新井とし氏が、せつりつにんか なんねん まえ じゅんびけいかくけんきゅう すず設立認可の何年も前から準備計画研究を進めておりました。当時、このことを知った町内外および近隣の方々はその実現を大いに期待しました。

とうきょうと せつりつにんかしょ じゅりよう せつ
東京都からの設立認可書受領の節はれきだいらじちよう じょうきさんし じむきよく歴代理事長となる上記三氏ほか事務局であっ

20年一昔

あだちほうえいかい せいき さいしよ とし じぎょう かいし
足立邦栄会が21世紀の最初の年に事業を開始しらい ま ねん かんて以来、あっという間の20年でした。その間、りじちよう だいが あらいいわこりじちよう理事長も代替わりし、新井五輪子理事長のもと、あたら はい じき き新しいフェイズに入る時期に來ています。

ろうじんかいごしせつ じゅうようせい つと
それにしても、老人介護施設の重要性を夙ににんしき じぎょうか ただい こうけん あらいけ認識し、事業化に多大の貢献をされてきた新井家のかたがた あたま さ わたし いわこ ねえ方々には頭が下がります。私は五輪子さんのお姉さんしょうがっこう どうきゅうせい えん とうしよ かんじんと小学校で同級生だったご縁で、当初から監事つとを務めさせていただいています。

いま だれ しょうしこうれいか こくりよく
今でこそ、誰もが、少子高齢化がどれほど国力をさゆう み し左右するか身をもって知ることになったわけです

ねんだい ほうかい うしな
が、1990年代のバブル崩壊、そして失われた10ねん ねん い年からいまや30年と言われるようになってしまっにほん げんじよう こうれいか たい くに しきくた日本の現状において、高齢化に対する国の施策は

あらい のりよし りじ 新井 規由 理事

わたし どうこう かんげき とちよう てんぼうだい
た私も同行し、感激しました。都庁の展望台あだちほうえいかいとくべつようごろうじんより足立邦栄会特別養護老人ホームさくらのけんちくげんば み おも 建築現場が見えるような思いがしました。よていどお はこねじんじゃぐうじ じちんさいそして予定通り、箱根神社宮司による地鎮祭からじょうとうしき せいだい と おこな上棟式と盛大に執り行われました。

ほうじんせつりつ ねん さら あだちほうえいかい ほんえい
法人設立20年により、更なる足立邦栄会の繁栄りじちよう かくしせつしょくいんとうかんけい すべと、理事長そして各施設職員等関係する総てのみなさまがた けんしょう たこう いの もう あ皆様方のご健勝ご多幸をお祈り申し上げます。

たむら こうたろう かんじ 田村 幸太郎 監事

じゅうぶん い
いまだ十分とは言えません。

だれ あんしん とし かさ くに
誰もが安心して歳を重ねることができ国にするみんかん じじよどりよく ふかけつ あだちほうえいかいには、民間の自助努力が不可欠であり、足立邦栄会そんざい りゆう たか おもが存在する理由はますます高まると思います。

ひょうだい ねんひとむかし か じつ
表題に20年一昔と書きましたが、実は21せいき い ねんひとむかし世紀はドッグイヤーとも謂われ、7年一昔というよ なか なが そくど まほど世の中の流れは速度を増してきています。そのい み ねん わか りじちよう意味で、これからの20年は、若き理事長のリーかそくどてき そしきダーシップのもと、さらに加速度的に組織としてのたいせいせいび しつてきこうじよう態勢整備とサービスの質的向上がなされるものきたい かんじ すこと期待しております。そこに監事として少しだけでこうけん いま ろうじん なかまい ものも貢献できたら、今や老人の仲間入りをした者としてぼうがい しあわて望外の幸せです。

あだちほうえいかい おも 足立邦栄会の思い

せんごにほん とくひつ
戦後日本の特筆すべきイベントとして、1964(S39)ねん とうきよう かいさい年、東京オリンピックが開催されました。このれきしてき とし せい う あらいいわこりじちよう歴史的な年に生を受けたのが、新井五輪子理事長でした。

りじちよう ちち くにおし せんご にほん ふっこう
その理事長の父・邦夫氏は、「戦後、日本の復興くろう ひと なに むくのために苦勞してこられた人に何か報いることができ じんせいせんばいがた しゃかい きようせい よ出来ないか。人生の先輩方が社会と共生しやすい世なか ほ おも かいごしせつ こうそうの中になって欲しい。」と想い、介護施設の構想をえが おも かたち描いていたそうです。そして、その想いが形となっ

20周年に寄せて

しゃかいふくしほうじんあだちほうえいかい しゅうねん まこと
社会福祉法人足立邦栄会20周年、誠に

おめでとうございます。

ねんかん にほん
この20年間は、日本が、これまでかつてなかついきお ろうれいか すず こうれいしゃふくし じゅうようせい勢いで高齢化が進み、高齢者福祉の重要性もきゅうそく たか ねん おも急速に高まっていった20年だったと思います。

ねん みち なか かずし こんなん できごと
20年の道のりの中では数知れない困難な出来事くろう すいきつ なかやご苦勞があったことと推察いたしますが、その中ちいき ふくし きよてん ほってん とで地域の福祉の拠点として発展を遂げてきたのはひ

わたし ねん 私の20年

ねん やまなしけん しょくば たいしよく さいたまけん
2001(H13)年、山梨県の職場を退職し、埼玉県しょくば てんしよく はじ かいごじっしゅうの職場に転職しました。初めての介護実習じゅんかいしどう ひ どうじたはつ かさ巡回指導の日が9. 1 1同時多発テロと重なりテレくぎづビに釘付けでした。

くぎづ ねん
テレビに釘付けといえば、2011(H23)年3. 1 1ひがしにほんだいいんさい こきょう ち つなみ なが はかい東日本大震災、故郷の地が津波に流され破壊さえいぞう ば いか あふ なみだ とれる映像に、やり場のない怒りと溢れる涙が止まり

ませんでした。

いま ねんまえ ねん あだちほうえいかい 横田 おさむ りじ 横田 修 理事

いま ねんまえ ねん あだちほうえいかい
て、今から20年前の2000(H12)年に足立邦栄会せつりつ あつ おも くにおしが設立されました。この熱き想いは、邦夫氏からいわこりじちよう う つ いま いた五輪子理事長へしっかりと受け継がれ、今に至りまわたし あだちほうえいかい もとす。私たちが足立邦栄会に求めること。それは「おたが そんざい みと あ しゃかい しあわ じっかん互いの存在を認め合える社会・幸せを実感できるきょうせいしゃかい もくひよう ひび ひとびと ところ よ そ共生社会」を目標に、日々人々の心に寄り添ちいきしゃかい ささ つづ い ねがい、地域社会を支え続けて行ってほしいと願っています。

なかじま しんいち かんじ 中島 伸一 監事

りじちよう かか みなさま
とえに理事長はじめ、関わっていらっしやる皆様のどりよく たまもの はいさつ努力の賜物であると拝察しております。しんがた かんせんかくだい しゅうそく けはい新型コロナウイルスの感染拡大が収束する気配をみ かんきょうか こうれいしゃふくし たずき見せない環境下で、高齢者福祉に携わることは、こいじょう こんなん ま ほんめんじゅうようせい たかれまで以上に困難が増す反面、重要性はさらに高よそう しゅうねん きまっっていくものと予想されます。20周年を機に、きほうじん ますますはってん ところ いの貴法人が益々発展されますよう、心よりお祈りもう あ申し上げます。

はたけやま ちはる りじ 畠山 千春 理事

てんしよく ねん ねん がつていねんえんちよう
転職から20年、2021(R3)年3月、定年延長きかん お ほうじんほんぶ うつ ろうがい期間も終わり、法人本部に移りましたが「老害」い よういましと言われない様戒めています。

かいごほけん だんかい さいいじょう むか
介護保険は団塊ジュニアが65才以上を迎えるねんもくひようすず いっそうせんりやく2040年を目標に進みつつあり、一層戦略とマネジりよく と ねんメント力が問われる20年になるのではないかとおも 思っています。



祝！20th
社会福祉法人足立邦栄会



しゃかいふくしほうじん あだちほうえいかい せつりつ しゅうねんきねんし
社会福祉法人 足立邦栄会 設立20周年記念誌

はーと とぅ はーと

「Heart to Heart 20th」

はっこうび れいわ ねん がつよつか
発行日 2021(令和3)年7月4日

はっこうもと しゃかいふくしほうじん あだちほうえいかい
発行元 社会福祉法人 足立邦栄会
とうきょうとあだちくさらぬま ちょうめ ばん ごう
東京都足立区皿沼2丁目8番8号
でんわ だいひょう
電話:03-5691-7150(代表)

ほうじん
法人ホームページ: <http://houeikai.gr.jp>

ビジョン2023 ホームページ: <http://vision2023.houeikai.gr.jp>

メールアドレス: info@houeikai.gr.jp

せいさくへんしゅう みぶんり けんきゅうじょ
制作編集 未分離デザイン研究所

れきし せいさく かんどうがかぶしがいしゃ
(歴史コーナー インタビュー・制作 感動画株式会社)

こまえ せいさく
(粕江エリアコラージュ制作 スタジオ ジャングル・ジム)